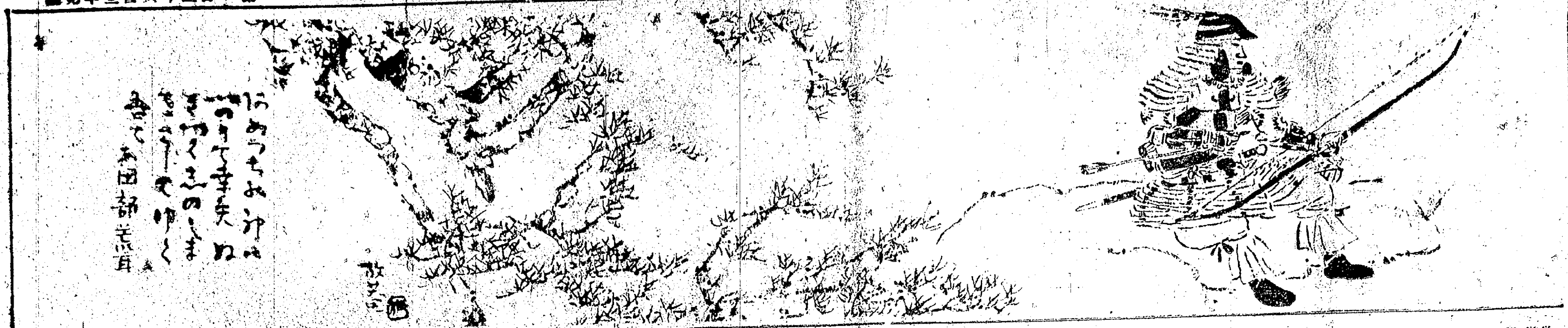


京城日報 朝刊 四方面
發行所 京城府太平通一丁目三十一番地 京城日報社

宮中新年の御儀

【東京電話】天地とともに窮まりなき御代、昭和十八年の元旦に當り畏くも天皇陛下には嚴しく宮中において輝く新春の御儀を執り行はせられ、寳祚の無窮と民草の[illegible]を御祈念あらせられる、天皇陛下にはこの日早朝いまだ明けやらぬ午前五時半、御束帶に御靴を召させられ賢所大前に御參進、御親拜、つい で皇靈殿、神殿に御拜禮あらせられ、四方拜の御儀を行はせられた、[illegible]

節折大祓の御儀

【東京電話】御稜威のもと聖戰の第二年、昭和十七年を送る宮中の御儀は[illegible]恙なく執り行はれた……天皇陛下にはこの日午後二時鳳凰ノ間に出御あらせられ、[illegible]

長し竹の園生の御榮え
聖上夙夜萬機に御精勵
御躬ら民を率ゐ給ふ

大御稜威天地に光被し、極北のアリューシャンから南溟の海の彼方まで米英撃滅の征戰に一年有餘、光輝ある昭和十八年の新春は豊かに明けた、松の翠千代榮えます大内山に、畏くも天皇陛下には玉體いよいよ御健かにわたらせられ、寳算ここに四十三を算へさせられ、嚴として皇戰將兵を御統率、大東亞民族の大御業を進めさせ給ひ、畏くも長き御健勝の御日常に拜するも畏き極みである。

また皇后陛下には御四十一歳、皇太后陛下には御六十歳の新春を御迎へさせられ、皇太子殿下には御健かに御十一歳のお正月を迎へさせられた。[illegible]

大元帥陛下には大本營を設置以來すでに六年、わけても米英撃滅の大東亞戰爭の發端を下し給うてより一年有餘、陛下の御日常はますます御多端にわたらせられ、御政務、御軍務といよいよ繁きを加へさせられ、[illegible]

御寫眞 義宮正仁親王殿下(御右上) 照宮成子内親王殿下(御右下) 孝宮和子内親王殿下(御左上) 順宮厚子内親王殿下(御左中) 清宮貴子内親王殿下(御左下) 宮内省御貸下

宮内大臣謹話

大東亞戰爭第二の新春を迎へるに當りまして謹んで聖上の御近況を申上げます。天皇陛下におかせられましては寳算四十三、天機ますます麗はしく玉體いよいよ御健勝に拜し奉りますことは誠に御同慶に堪へないところであります。[illegible]

一億決戰に起て
朝鮮總督 小磯國昭

小磯總督

[illegible]

開戰以來一年有餘における[illegible]

今や米英は[illegible]

顧へば昭和十七年は既に明けまた既に暮れたのであるが、新しき昭和十八年こそは愈よ大東亞[illegible]ならぬ。

社説 完勝の新春

千古未曾有の大東亞戰爭を戰ひ抜き捷報相次で至り歐洲樞軸國の善戰と相呼應する間にも、元朝の昭々乎たる曙光は瑞氣を伴うて大八洲をおとづれ、茲に歴史的なる昭和十八年元旦を迎へた。

謹みて惟ふに畏くも天皇陛下に於かせられては日夜御精勵、脩き御躬を以て曠古の大戰に從ふ海陸の軍を統べさせ給ひ、曾て御軍裝を解かせられず、皇后陛下、皇太后陛下には戰ふ國民の上に御仁愛を垂れさせ給ふ。また皇太子殿下にはまことや日嗣の皇子の御[illegible]

大御稜威の下、遠き征旅にある皇軍は昨年度に於て世紀を新たにする程の戰果を收め南方の殆ど全部を米英侵略の手より救うて共榮に民族を再出發せしめ、更に米本土をはじめ、濠洲、印度に戰果を擴大、遠くアリューシャン群島を奇襲してこれを占據し、また西南太平洋の渺茫たる海域に於て[illegible]粉碎殲滅天地を覆ふと共に[illegible]

氣高く、未だ御稜く在しまじながら深く將兵の上を思召し、快勝の報至る毎に御機嫌いと麗はしき御由を洩れ承るだに有難き極みである。斯く竹の園生の彌榮えに榮えますを拜するを得て、年頭の欣喜之に過ぐるものはない。

[illegible]として北邊を護る。その忠烈にして勇壯なる、尚武日本の傳統をよく顯現せるものと云ふべく、更に銃後一億國民は總力を結集して前線將兵の一死奉公に劣らざらんとし、愈よ聖戰完遂と決戰態勢建設に挺身して居るのはこれまた同慶の至りである。想ふに、愈よ前線銃後共に、全く決戰の時を迎へたと云ふことである。巨大なる資源を恃んで戰意些かも衰ふるところなき敵を、今年こそは破碎撃滅しなければならない。戰局を決定的なものたらしめねばならない。その重大なる任務は悉く我等が双肩に負ふものであつて、凡ゆる職域に於て一層の精進を督し、將兵と倶に戰はねばならぬ。即ち、一億國民が眉をあげて歳の首の頌歌を奉唱するに際し、既に日本人たる自覺に起ち或は帝國を親邦として新しく大東亞共榮圏の傘下に欣然再起の途に上れる諸民族が、感激して之に和するを思ふだけでも、國民は緊褌一番してその期待に副ふところがなければならぬ。

我が朝鮮に於ては小磯總督の統理約半歳、二千四百萬同胞の皇民化に、道義朝鮮建設に、成績大いに擧り、殉國的精神の昂揚せらるゝと共に、内地と相提携して[illegible]最大の課題たる食糧增産確保、運輸交通の整備強化その他に全力を傾倒せることに欣快とすべきである。小磯總督は嘗て臘御用納式に於て『理念は徹底したから決戰第二回の新年よりこれを實踐に移さねばならぬ』との意味を述べた。之は敢てひとり朝鮮のみが持つ課題ではなく、一億が歳首に於て深く肝に銘じ、且雄々しき決意に起つて之を行ふべきである。皇道樂土は困難なる道を超えてのみ築き得るものとし、擣まざると共に、また思榮昇る初日影を仰いで、皇軍將兵の武運長久と、護國の人柱となれる英靈の冥福を祈り、再起奉公を念とせる傷病將兵の一日も早き快癒を希ひ、かくてよろしく皇恩の深く渥きに應へ參らすべく、年頭に於て恭しく誓ひ奉る。

たゞ勝ち抜かん
内閣總理大臣兼陸軍大臣 東條英機

昭和十八年の元旦を迎ふるに當り[illegible]なる大御稜威の下、[illegible]畏みて聖壽の萬歳を壽ぎ奉る。[illegible]長くも天皇陛下におかせられては[illegible]

顧みて[illegible]大東亞戰爭の[illegible]

東條首相

今や帝國は戰爭第一年において早くも大東亞における米英の兵力を一掃し、廣大なる地域にわたる諸多の資源を確保すると共に、[illegible]

また[illegible]

かくして[illegible]

併し乍ら[illegible]

完勝に邁進
滿洲國國務總理 張景惠

大東亞戰爭の赫々たる戰果の裡に[illegible]四千三百萬國民とともに謹みて建國元神の御前に[illegible]

初詣
高濱虚子

文弱の徒とあなどりそ初詣
落葉吹く風に追はれて地下室に
多ぬくし日當りよくて小狹くて
ついついと黄の走りつゝ芒枯る
木枯に吹きまくられてバスを待つ

装畫 小杉放菴

南方第一線の朝ぼらけ 聖壽萬歳を壽ぎ軍旗に敬禮する第一線部隊勇士

必勝への戰略的基礎確立

陸海軍の輝く綜合戰果

蹶起の秋來れり

朝鮮軍司令官 板垣征四郎

長くも宣戰の大詔を拜して茲に第二春、輝々たる戰捷の中に皇紀二千六百三年の元旦を迎ふ。嚮に東天を拜し謹みて聖壽の無窮を壽ぎ奉る。惟ふに米英の非望を撃摧して帝國の自存自衞を完うし、速に禍根を芟除して東亞の安定を確保し世界の平和を確立せんとするはこれ今次戰爭の目的なり。而してこれがため毅然起ちたる皇軍は御稜威のもと、忽ちにして東洋における敵國の牙城を覆滅し、敵の據つて以て帝國を壓迫せんとなしたる體勢を打破し以て必勝不敗の基礎態勢を確立し得たり然りと雖も緒戰において大敗を喫したる米英は、今や全力を傾倒して軍需生産に狂奔すると共に、南に北に眞面目なる戰力反攻を熾烈化し來りつつあり、正に戰爭は決戰の段階に入りたるものといふべく、その戰力必ずしも輕視を許さざるものあり。

固より正義は皇國と共にあり、皇軍に有利なる戰略態勢と必勝の確信あり、他面大東亞の底力亦能く大戰に完勝するに足る。すなはち米英等の敵國悉く御稜威の下に屈伏すべきこと必至なりと雖もなほ征戰の前途は遼遠にして幾多の艱難障礙あるを覺悟せざるべからず。

顧つて朝鮮の現況を看るに政治、經濟、教育等諸般の施設は着々整備せられ、實力の涵養とともに士氣高く、待望の徵兵制また明年を期して實施せられんとす。半島がその總力を擧げて君國のために挺身すべき秋すでに來れるものといふべし。冀くば軍官民彌々一致團結、各々全力を振起し防衞の完璧を期するは勿論、克く戰時生活に耐へて軍需生産を擴充し、徵兵準備を完遂する等、決戰戰力の培養に邁進せざるべからず。抑々今次戰爭は決戰の徹底になり、すなはち今日の戰爭に完勝すると共に長期の戰爭に勝ち拔き最後の勝利を獲得せざるべからず。半島二千四百萬同胞宜しく皇國臣民なるの矜持を鞏固にし、戰つて倦まず、戰局の如何に拘せず、凡百の困難を排除し、堅忍持久益々不退轉の勇猛心を發揮し以つて各々その本分を盡し職域に勵み奉らざるべからず、聊か所懷を述べて年頭の辭となす。【寫眞=板垣朝鮮軍司令官】

陸軍

二萬餘キロの大戰線

占領地域 我が本土の十倍

大東亞共榮圏建設の光榮ある指導者として帝國の逞しき巨歩はその第二年に入り、陸海將兵の勇武と相俟つて銃後一歲は生産力增强に一段と拍車をかけ、赫刺として大いなる進軍を開始し、長期戰に備へて昭和十八年の輝かしき新春を迎へた、米英蘭、敵の侵略據點として、また衆を恃みABCD包圍陣と誇號し、戰前敵性活動をほしいままにしたシンガポール、馬來半島、蘭印、ビルマ、比島、香港等の諸地域は皇軍將兵の勇戰奮鬪を以て僅か一ケ年の短日月で擧げてわが制壓下に置し、かつての敵の侵略據點は今その性格を一變、わが戰力培養地となり、また逆にわが前進據點となつたのである。いまやわが陸軍部隊の作戰地域は北緯五十五度のアリューシャンより赤道を越え、濠洲大陸をのぞむソロモン群島の南緯十度に達する實に東から西に亘る蜿蜒二萬キロに及び、戰史未曾有の廣大なる地域に及び、新なる占領地域總面積は支那大陸の占領地を加へると實にわが本土の約十倍に達するのである

北方最前線たる故國を距る三千數百キロのアリューシャンでは蕭條、一木一草もない常冬灰色の地にあつて寒烈骨をも刺す嚴寒と戰ひ、絶えざる敵の反撃を撃碎しつつ言語に絶する死闘をつづけ作戰最西域のビルマにおいては猛暑を克服し、ジャングルを踏破して敵英印軍百萬と西部國境方面で接觸し、東北方では十數個師の重慶軍と怒江の線で相對峙して敵に進攻の隙をいささかも與へず、マライ、蘭印、比島においては治安確保の中心となり將來の準備に遺憾無きを期し日夜鍊成にいそしむ皇軍將兵の勞苦に對し一億の國民は無限の感謝を捧げるものである、一方、目を大東亞の北邊に轉ずれば友邦滿洲國、蒙疆の開發は着々と進み、滿洲國々民は自分の用を節して親邦の非常時に挺身、日滿一體の契を愈よ固うし、關東軍の將兵は南に北に戰友の赫々たる武勳を耳にして、その武運に無限の祝福をおくり、はやる心を押へて身も凍る嚴寒も意とせず、實戰以上の猛訓練を重ね、晝夜を分たぬ至嚴の警備に大東亞北邊の護りを磐石不動の安きに置いてゐる

去る十二月八日大東亞戰爭開戰一周年の日にわが陸軍の一ケ年の輝く綜合大戰果が發表されたが敵兵力四百廿萬、遺棄死體卅三萬一千、俘虜四十二萬六千、鹵獲品の數と共に尨大な數が發表され全世界を驚嘆させ、わが制壓下の廣大なる地域には一片の敵陣地、敵一兵も存在を許さぬ大戰果の蔭に護國の神と化した二萬一千百七十柱の英靈と戰傷四萬二千五百七十六名の貴い犧牲のあることは銃後國民の胸底深く牢記しなければならないところだ、一方緒戰において慘敗を喫した敵は開戰一ケ年を經て漸く立直りを見せ、執拗なる反撃を繰返しわが南方占領地の奪回を夢み、或は重慶に大量の飛行機を送り込み支那大陸からするわが本土空襲を企圖し、南方ソロモン群島方面ではガダルカナル島を中心に慘烈なる空陸海の決戰が繰返へされ同方面のわが將兵はあらゆる艱苦を克服して敵と對戰中なることが第八十一議會劈頭東條首相の戰況報告で明らかにされ、國民の士氣を喚り鼓動する在支敵空軍に對しては敵航空基地を求めてこれを殲滅し、その活動力激減に不斷の努力がつづけられてゐるのであるが、國民は敵のわが本土空襲に對する萬全の防備をさらに强調されるのである

かくて開戰一ケ年にして東亞の地圖は塗り替へられ、東洋の歴史は書かへられつゝあるが、銃後一億の國民は尊い犧牲に對して深甚なる哀悼の意を表すると共に、將兵の勇武と相俟つて決戰の激烈たる消耗戰に備へ生產力擴充、戰力の増强に邁進せねばならぬ

總督府の四方拜

磐石不壞、輝かしき大東亞戰爭のうちに戰爭第二年目昭和十八年の新春を迎へ北漢山麓の重厚宏壯な廳舍に還進してゐる總督府ではこの朝午前十一時三十分から第一會議室で四方拜式を擧行する、小磯總督(田中總監は病缺)をはじめ各局部長、李王職代表、第一次所屬官署の長等三千名が參集、天皇、皇后兩陛下の御眞影を奉拜、終つて大ホールにおいて宮城を遙拜し、小磯總督の發聲で聖壽萬歳を奉唱、晴れやかに新春を賀し、戰捷の第二年目に突入する

なほ四日の御用始式は午前十時から第一會議室で擧行される

海軍

敵の反攻を悉く粉碎

無敵潜艦 大西洋にも進出

【東京電話】征戰すでに一ケ年、嚇々たる大戰果は實に世界戰史にも未曾有のものといつても過言ではなく、この光輝燦たる戰果のうちに今日こゝに昭和十八年の第一春を米英撃滅、征戰完遂の新たなる決意の下に雄々しく迎へるのだ、しかしながら過去五ケ月間の敵米國のソロモン方面への出撃ぶりを見ると、叩かれても叩かれても性懲りもない頑迷、執拗なものがありその豐富な資源と生産力を恃んで一九四三年乃至一九四四年反攻を豪語してゐた米國が開戰一年以内に早くもかくの如き反攻に出て來たことは、同方面の重要性は勿論のこと、われくとして十二分の覺悟と明察が必要であらう、思へば今年こそは一大決戰の秋であり、徒らに過去の大戰果を云々してそれに醉ふ時でなく、今はただただ征戰完遂に一歩一歩この決戰を勝ち拔く決意を新たにすべきの秋である、時恰も榮えある年頭に當つて今年も勝ち拔く決意の基礎として過去一ケ年の帝國海軍大戰果の相貌を概觀して見よう

ハワイ海戰

昭和十六年十二月八日、無類強固なハワイ眞珠灣を奇襲した帝國海軍部隊は航空部隊と特殊潜航艇による特別攻撃隊の空海兩面からの決死的殲滅戰をもつて、開戰劈頭一戰にして米國太平洋艦隊を全滅し去つた、ハワイこそアラスカのダッチハーバーとパナマを結ぶ線を底邊とする米國の太平洋三角防衞線の重要據點であつたがこの第一撃によつてこれを粉碎された米海軍の打撃は太平洋艦隊主力の大半潰滅の致命傷とともに蔽ふべからざるものがあつた、この戰史的奇襲戰略の成功は爾後の太平洋戰局に壓倒的有利な態勢を確保した一大布石であつた

マレー沖海戰

東亞の風雲急を告げ英國新鋭東洋艦隊旗艦として急遽東航、開戰直前の十二月二日シンガポールに入港したプリンス・オブ・ウエールズ(トマース・フイリップス東洋艦隊司令長官、リー艦長坐乘)はわがマレー作戰への護送船團を狙ひ新鋭戰艦レパルスその他を率ゐて猛々しくも出動したのであつたが十二月十日午前十一時半マレー半島東岸クワンタン沖で帝國海軍航空部隊に捕捉され、時を移さず出擊したわが海鷲の勇猛果敢な攻擊にレパルスは忽ちにして轟沈、不沈戰艦と豪語した最新鋭艦プリンス・オブ・ウエールズもまた轟沈され、開戰三日にして英東洋艦隊主力はマレー沖に全滅したのである

この事實は海軍力を過信してゐた英國民の精神を根柢から覆すとともに、東洋における百年の牙城シンガポールの價値を半減し去り同時に、對空防禦砲火の完璧を誇つた不沈戰艦のわが海鷲によるあへなき潰滅は、英國の建艦技術陣に一大衝動を與へたもので、わが海軍航空部隊不滅の金字塔はこゝにもまた高く打ち樹てられ、その後の西南太平洋方面作戰に絶大な寄與をなしたのはいふまでもない

レキシントン撃沈

開戰以來わが海鷲の赫々の戰勳に對し、佐久間艇長以來血の滲む研究訓練に邁進してゐた帝國潜水艦がはじめて實戰に參加、大戰果の第一聲を放つたのは米空母レキシントン型撃沈であつた、緒戰の大慘敗による米國內の不安、米海軍に對する非難に居たゝまらずあはよくばとわが本土空襲を狙ひ有力部隊を隨伴して出動して來たレキシントン型一隻を、昭和十七年一月十二日夕刻ハワイ西方海上に捕捉した帝國潜水艦は雷撃よくこれに魚雷二本を命中せしめ、ことに世界最大三萬三千トンを誇る米空母レキシントン型を天晴れ太平洋の海底深く葬り去つたのである

エンダウ沖海戰

海鷲と潜水艦の輝く戰果についでわが水上艦艇の輝かしい最初の凱歌は一月廿七日のエンダウ沖海戰で、わが輸送船團を狙ひシンガポールから出擊した英國驅逐艦二隻とマレー東岸エンダウ沖に展開された海戰こそは、開戰五十一日目にしてはじめて交へられた日英驅逐艦二對二同等戰力による艦隊戰であつた、この海戰においてネルソン提督以來の傳統を誇る英海軍もわが砲術力の前に脆く潰え英驅逐艦サネットは忽ち撃沈され、驅逐艦ペンペイヤーは戰友を見捨て遁走の醜態を演じたのに反し、わが方は『一艦一片の被害なし』の大勝に終止した

ジヤワ沖海戰

昭和十七年二月四日、帝國海軍航空部隊は米蘭艦隊主力をジヤワ海カンゲアン南方三十浬に捕捉、熾烈な攻擊の下に敵巡洋艦五隻を撃沈破して蘭印艦隊を事實上全く潰滅、當時作戰中であつたシンガポールへの敵援を不能ならしめるの戰果を收めた

バリ島沖海戰

日露戰爭以來の傳統に輝くわが水雷戰隊が得意の夜襲作戰にその眞價を發揮したのが二月二十日バリ島沖海戰で、同島東方ロンボック水道に敵巡洋艦二、驅逐艦三よりなる米蘭聯合の優勢部隊を攻擊、戰闘十分にして敵驅逐艦二を撃沈、他の一隻を大破、敵巡洋艦二隻を大破、遁走せしめたのであつた

わが海鷲は二月廿一日ニューギニヤ島北東方數百浬の洋上に空母を基幹とする敵有力部隊を發見、必殺の體當り戰法により敵中型新式空母一隻を撃沈、重巡一に大損害を與へ敵戰闘機十數機を撃墜する戰果に尊い犧牲を出した

バタビヤ、スラバヤ沖海戰

蘭印方面敵前上陸部隊の護衞に任じ作戰中であつたわが海軍部隊は二月廿七日夕刻から三月一日にわたる間のスラバヤ、バタビヤ沖海戰でわれを妨害せんと出擊した米、英、蘭、濠の有力部隊と激戰、わが得意の肉薄攻擊、水雷夜襲戰により敵艦艇計廿四隻を撃沈破、しかもわが方は掃海艇一沈沒、驅逐艦一小破の全く一方的の大戰果をあげ、英海軍スポークスマンをして

『今や日本艦隊は西南太平洋において絶對的優勢を確保した蘭印海軍はすでに麻痺狀態に陷り最早蘭印水域一帶を維持することは不可能になつた』と悲鳴をあげさせるに至つた

セイロン島強襲

印度洋に作戰中であつた帝國海軍部隊は四月五日から同十三日までの間にコロンボ、ツリンコマリを急襲、英空母ハーミス以下英艦艇五隻、英商船六十隻を撃沈破し飛行機百二十機撃墜の大戰果をあげ、すでに香港、シンガポールを失陷した英國が最後と恃む印度洋基地中のセイロン島コロンボ、ツリンコマリに有力部隊を集結して印度洋通商路確保に備へたのであつたが、その企圖もわが一擊に潰え去り英印度、濠洲との連絡もいよいよ一大脅威に曝されることになり老英帝國の落日の憐れな姿を暴露することになつたのである

珊瑚海々戰

相次ぐ諸海戰に慘敗の浮目に喘ぐ米海軍はハワイ、濠洲、ニュージーランドを結ぶ線に强力な新空母集團をもつて出擊したのであるが五月七、八兩日にわたりわが聯合艦隊航空部隊に捕捉擊滅されたのである、敵はこの海戰で空母二、戰艦二を基幹とする從來に見ぬ强力なものであつたが、殺到するわが海鷲の前には一たまりもなく擊沈破艦艇九隻、飛行機擊墜九十八機の損害を蒙り敗退したのである

東太平洋作戰

六月四日から七、八日にわたり帝國海軍部隊との協力下に米國に殘された最後の北方據點に先制的楔を打込んだのであるが、時を同じくして太平洋々心のミッドウエー島に勇猛果敢な强襲を決行、米空母ヨークタウン型一、米甲巡サンフランシスコ型一隻を擊沈、米空母エンタープライズ型一に損傷を與へ、敵機約百五十機を擊墜し去つたのである

第一次ソロモン海戰

敵米英は殘された唯一の對日反攻基地濠洲との補給連絡路確保に狂奔し大輸送船團を隨伴した米英聯合の有力部隊をソロモン方面に結集北上したのであるが、精鋭なる帝國海軍部隊に捕捉されるや八月七日より同九日まで三日間にわたる夜襲戰を通じ敵艦船の擊沈破四十隻、飛行機擊墜五十八機のわが方壓倒的大戰果のもとに潰敗を喫したのである

第二次ソロモン海戰

米國の執拗な反攻企圖は第二次ソロモン海戰となつて現れた、八月廿四日午後敵の增援艦隊をソロモン群島東方洋上に發見した帝國海軍部隊は海鷲をもつてこれを急襲、米新大型空母一を大破、米新中型空母一、米戰艦ペンシルバニヤ型一を中破したのであつた

南太平洋海戰

米海軍はソロモン海域を太平洋の決戰場として必死の全力をあげて出擊を繰返し、十月廿六日の南太平洋海戰もこれと一聯をなす大海戰で日米とも空母を基幹とする堂々の激闘戰を交へたのであるが、凱歌は依然われにあがり戰艦一、空母エンタープライズ、同ホーネット、大型空母一の三空母、巡洋艦三、驅逐艦一を擊沈、大中破艦六の大戰果を收めたのである

第三次ソロモン海戰

第三次ソロモン海戰こそは大東亞戰爭始まつて以來はじめて日米兩國の主力艦が暗黑の南海上に相見え、しかも近距離で砲擊戰を交へた海戰史上稀有の凄絶極まりない一大海戰であつた、ガダルカナルの一小島を中心とする兩國の補給輸送船護衞の有力海軍部隊の決戰は、しかし敵米國の必死のあがきにもかゝはらず敵戰艦二隻以下計十七隻以上の優秀艦船を出し大中破艦船十四以上、飛行機擊墜七十三機以上の大損害を喫せしめたのであつたが、わが方もまた開戰以來初めての戰艦一隻沈沒、その他の尊き犧牲を出したことを思へば、如何にこの海戰が壓倒無比のものであつたかが想像されるとゝもに、敵の反攻企圖が決して侮るべからざるものであることを一億國民が銘記すべきであらう

ルンガ沖夜戰

十一月三十日夜嵐をはらむガダルカナル島周邊に待機中の敵有力部隊にわが得意の本格的水雷戰隊をもつて突き込み、敵戰艦一、オーガスタ型巡洋艦一、驅逐艦二に火災を生ぜしめ、しかもわが方は驅逐艦一沈沒といふ大戰果を收め、わが帝國水雷戰隊の眞骨頂を遺憾なく發揮した特筆すべき海戰であつたのである

反樞軸艦隊

ジ軍港に集結

【リスボン卅日同盟】反樞軸艦隊はチュニジヤ戰線における作戰が失敗して以來しきりにイベリヤ半島を狙ひ政治、軍事工作に躍起となつてゐるがパリ放送は卅日大艦隊がジブラルタル軍港に集結してゐる旨を次の通り述べてゐる

目下ジブラルタル港には反樞軸軍の主力艦三隻、巡洋艦三隻、驅逐艦十三隻、潜水艦十二隻その他運送船ならびに商船百餘隻が集結してゐるが、恐らく反樞軸軍が地中海において進攻勢を企圖してゐると解される、すでにリスボン駐剳英國大使は廿九日ポルトガル首相サラザール博士を訪問して長時間にわたつて協議を遂げたが、ロイテル通信の外交記者バーガソンも廿日現在の戰局を檢討したのちチュニジヤ地方の戰局一段落を俟つて反樞軸艦隊が地中海に行動を起すだらうとの觀測を傳へてゐる

命令違反者は嚴罰

日本軍空襲に狼狽

【イスタンブール卅日同盟】カルカッタ來電=日本航空部隊の數次にわたるカルカッタ爆擊により印度政廳當局は今更の如く狼狽、防空體制に大童で、カルカッタ警察長官は卅日特に布告を發し空襲に對する防衞措置を命令するとゝもに、右命令違反者は嚴罰に處する旨發表した

随想録

一年の計は元旦にありといふが、現下の國民は子孫の爲に百年の計を樹てるばかりか、世界に二度と再び戰亂のない樂土を築く爲に戰鬪してゐるのであるからこの元旦に何やおろそかな計を立てることは出來ないのであるから▲戰捷の春を祝つて一獻傾けるやうにと、御神酒も配給した當局の親心を酌み、醉つて亂れずこれを活力素として明日からまた元氣に働かねばならない。食ふか食はれるかの戰爭を戰つてゐる國民だ、その覺悟は勿論ついてゐる筈ではある▲蒙古襲來に際し、時の執權北條時宗は窮屈な財政が必至であるのを顧慮せず、筑紫一帶に嚴重な防壘を築き、九州全土の兵は勿論、京都鎌倉にも兵の訓練所を設けて、戰時の計畫を立て、更に中國、西國には倉廩を建てめまいとした▲また大楠公は、僅かに兵を率ゐ、赤坂には館を持つて居るに過ぎない一豪族であつたが、忝けなきお召しを拜すると、忽ち城を築き、軍を飾ひ、その夫人久子は莚のもやしを作つて持久戰の覺悟を固めた▲それはかりか、大楠公は高野山の杉、檜を伐出して兵舘を作り、淡路の和田氏をして水軍の訓練をやらせ、堂々たる海戰隊を持ち得たのである。その水軍が颶風雨のために消えなかつたら、日本歷史は書き改められてゐた筈だ▲百年の計とはこのやうな叡智と、精勤とから出發したものでなくてはならぬと同時に、深く國家を思ふ忠誠から現はれたものであつてこそ力強いものとなる。敵は巨大な資源を恃む米英だ。國民の全部が、楠公であり、大楠公である決意を必要とする▲お雜煮の餅に祝醉し、もし一分間の安息でも盜んだら、今年こそは敵の息の根をとめるといふ覺悟も戶惑ひして了ふ。隙を見せずに邁進しよう。

半島の電力統制

朝鮮電氣株式會社を設立

閣議決定

【東京電話】朝鮮の電力統制については卅一日の閣議に附議決定されたが、それによる朝鮮電力國策實施要綱は左記の通り

第一方針 大東亞共榮圏內において朝鮮に負荷せられたる生產力擴充、特に最近の緊迫した輕金屬工業その他重要國防產業の擴充計畫の完遂を期するためその基礎產業たる電氣事業につき之が合理的開發を促進し、電力料金の適正を期すると共に電力を動員、強力に實施するは刻下の急務たるに鑑みこゝに國家管理體制を確立し以て朝鮮における電氣事業の高度國防國家體制に即應せしめんとす

第二要領 一、朝鮮總督は朝鮮における發電、送電及び配電事業を管理すること、但し自家用又は地方的需要に供するものにして統制の要なきものはこれを除く事

二、朝鮮總督は電力設備の建設、電力料金其他電力事業に關する重要事項を決定し又は電力管理上必要なる命令をなし得るものとする事、前項後段の規定によりなし得る命令により生じたる損失は政府補償とする事

三、朝鮮總督は新たに制令に基き特殊會社たる朝鮮電氣株式會社(假稱)を設立し差し當りその定むる發電及び送電を行はしめる事

四、朝鮮電氣株式會社は朝鮮における既存電氣會社の統合、事業の讓り受け及び設備の現物出資等によりこれを設立する事、前項の場合における評價に關しては評價委員會を設置してこれが公正妥當を期する事、政府は官有に拘はる所有電力設備及びその附屬設備を朝鮮電氣株式會社に現物出資する事

五、朝鮮鴨綠江水力發電株式會社は滿洲國との特殊關係に鑑み朝鮮電氣株式會社に統合をなさず制令に基き特殊會社を改組してこれを存置し、鴨綠江及び圖們江本流における發電を行はしめる事

六、政府は朝鮮電氣株式會社に對し社債及び配當の保證、租稅の減免その他業務上必要なる特權を附與する事

七、朝鮮總督は朝鮮電氣株式會社の業務に關する重要事項につきその認可を受けしめその他營業上必要なる命令をなし得るものとする事

八、朝鮮鴨綠江水力發電株式會社に對しても前二項に準じ助成監督をなす事

第三措置 一、朝鮮總督は本要綱を實施するため本令及び豫算上必要なる措置をなすものとす

二、特殊會社の設立及び運營に當りては民間の優秀なる技術及經驗を中心としこれを積極的に活用するものとす

三、電氣事業の統合に當りては重要產業との關係を考慮し戰時下における生產活動に支障なからしめるため必要なる措置を講ずるものとす

四、朝鮮電氣株式會社は朝鮮鴨綠江水力發電株式會社の株式の半數を所有する等の出資により一元的に運營するものとす

新春頌歌

楠田敏郎

みんなみの涯なる島の兒らだにも君が
代の春を壽ぎ歌ふ
陸に海にみ旗なびけて兵士ら春をぞ祝
ふ聲もとどろに
初日影さしそふ空をとよもして征く機
もあらむ思ふに淸けき

心臓 喘息の治療に 心力
◎精力體力弱き人◎
◎動悸息切ある人◎
◎結核肋膜熱の人◎
(廣價一圓より)
福山市 心力本舗

原料香水
よいかほりの永く保つ
オリヂナル香水
名香三十八種が活々と調和している花精そのまゝの感じの香水!
東京・日本橋・水天宮前 本舗 株式會社 安藤井筒堂

ミリオンミシン
品質の良い 國產優秀
(有名店=全國ニ在リ)
萬稔ミシン商會
京城府大門通一丁目九九 電話本局4011

化粧品 歯磨 小間物 和装品
卸問屋 有限會社 尖 京城山大商會
京城府南町四〇(昭和通り) 電話本局(2)七九三二番

新龍山三角地 西原産婦人科 入院隨意
電話龍山一〇三五番

義手足 コルセット
技術優秀 進歩改良せる製品 御申越次第カタログ進呈
御希望ニ依リ技術員特派・御滯在八十日以內完成
京城 長谷川町 高野義肢製作所

ここも戰場だ
京城府長谷川町九三
株式會社 栗田鑿岩機製作所 京城營業所
本社工場 名古屋
電話本局(2)五二二〇番

旗
青年團旗、國旗、校旗
優勝旗、其他旗一式
青年隊腕章、帽章、標章
京城府南大門通一ノ九〇
朝鮮美術品所旗部
電話本局(2)二二二三番

ビタミンB2複合體
ビタミンB_2複合體が奏効するためには消化吸收良好なるを第一條件とす
本劑は牛肝臟・米糠・蠶の蛹より抽出せるビタミンB_2複合體にして蛋白質を完全游離す
故に吸收頗る良好 衰弱せる胃腸にも何等の負擔を與へず奏効す
理研ビタス錠
適應症 結核 胃酸過多 胃潰瘍 慢性胃炎 慢性大腸炎 慢性下痢
一〇〇錠 二・五〇
三〇〇錠 七・〇〇
九〇〇錠 二〇・〇〇
財團法人 理化學研究所 創製
販賣元 株式會社 玉置商店

戰場精神を昂揚
絕對唯一の臣道を實踐
政務總監 田中武雄

田中政務總監

新世界の創造を目指す曠古の大詔下、皇紀二千六百三年の新春を迎ふ。我等の父祖も曾て味ひ得なかつた壯大無比なる年頭に立ち、昭和國民たるの光榮に感激禁じ得ざるものがある。茲に謹んで皇室の御繁榮を壽ぎ奉り、皇軍將兵の勞苦を偲び決意を倶に新たにしたいと思ふ。顧みれば此の昭和十八年は如何なる年であるか。一言にして足る。即ち『決戰の年』である。

緒戰 一年の偉大なる戰果は大東亞における敵據點の掃滅と道義大東亞共榮圏建設の邁進とを齎らし、既に我が不敗の地位、態勢を確立するに至つたが、當面の敵米國は其の國の經濟勢力を糾合し、其の厖大を誇る生産力を恃んで戰力の飛躍強化を企て以て太平洋上に決戰を挑む意圖を示すに至つた。おもふにこれ我が皇軍の終局の勝利を決する戰機であつて、遠くソロモン群島周邊に展開しつゝある海空の激戰は正にこの決戰の前哨戰なるが爲に[illegible]消息を物語り、吾人をして眦を決し必勝の熱意胸にたぎるを抑へ難からしむるものである。

かく て神兵一顆決戰の年に入り、大東亞戰爭はこゝに最後の決を爭ふ時となつたが、素より終局の勝利が神武の皇軍に歸すべきは[illegible]ふの要なしとするも、若し戰力補給の任を擔當する我等銃後の國民が漫然過去の戰果に安んじてその責務遂行を怠らんか、武器戰略の一大消耗を特徴とする戰爭の局面に不測の破綻を生ぜしめ、聖戰の目的を百千年の後に貽すこと明かである。

こゝ においてこの決戰の年に處する國民の決意は一にも二にも戰爭物資の增産に徹しなければならぬ、時に人的、資源的要素において重大なる使命を負ふ我が半島としては、[illegible]る國民皆勞の[illegible]の全力を捧ぐるの外、[illegible]における增産の[illegible]て大なるは言を俟たず、客秋以來展開せる生産力擴充の一大國民運動を益々強化し、敵國の挑みつゝある生産戰にも斷乎挑ひ勝つの覺悟あるを要する。

今や 國民活動における凡ての職能と職場はそのまゝ一直線に決戰の戰場に通じてゐる。銃後の各員悉く銃劍をとらざる戰士ならざるなし。殊に徴兵制度と義務教育制度の實施決定を見て、皇民錬成に一大飛躍の機會を與へられたる半島同胞諸君として、陛下のこの決戰體制下の生活戰場を以つて修練の道場となし、進んで自ら心身を錬成し向上して、大東亞に指導的國民たるの將來を開拓するの決意と努力とを求めて已まないのである。

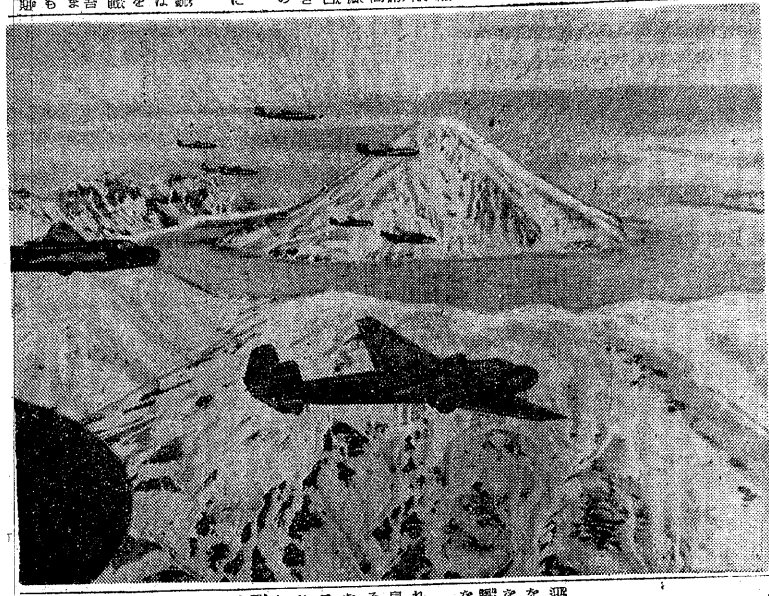
聖戰 下再び迎へる大いなる新春の劈頭、われ〳〵は臣節を盡さんとする自己反省の下に職域奉公に徹し切り、而して決戰の必勝に向つて共に邁進しよう。これ宣戰大詔の中に『朕ハ汝有衆ノ忠誠勇武ニ信倚シ』と宣はせ給ふ聖旨に對へ奉る唯一絕對の臣道である。

敵は眼前に
鎭海警備府司令長官 後藤英次

大東亞戰第二回の元旦を迎へ、皇軍は益々御稜威に映えさせられ國運愈々隆昌に赴きつゝあるを拜することは洵に慶賀に堪へぬ所なり。敵米英は昨年後期においてその戰時體制の整備、生産力の擴充を誇稱し、反撃成功の宣傳にこれ努めたるにも拘らず、太平洋において甚大なる損害を蒙りながら一著明の戰果も成らず、今や士氣不振、只管その敗戰の糊塗に汲々とし戰略方面また蹉跌の大反撃に逢ひ、その窮態振りを暴露し事態の收拾に苦慮しつゝあるものゝ如し。

一方 わが方においては緒戰において破竹の進撃をもつて赫々の戰果を舉げ、電光石火的に大東亞資源地の大部をその手に收めて強靭なる戰力態勢を築き、今やその戰線の整理もすでに成りて征戰第二回の新年を迎へるとゝもに再び大活躍を起して敵に新たなる鐵槌を加へんとしつゝあり。この間國内總力態勢も整備され、生産擴充も新活動を始むるとゝもに占領地の建設また着々その緒につき征戰の前途實に光明燦然たるものあり。

皇軍 の無敵戰力はすでに充分試驗濟にして毛頭不安なく、征戰の目的完遂は一にかゝりて銃後の總戰力にあり、要は常に敵は眼前にありの覺悟をもつて死力を盡して事に當らば前線將兵の勇戰に應ふるを得べし。新年を迎へ吾人は特にこの覺悟を新たにし、また須らくこれを實行に現はし、もつて奉公の途を全うせむことを期するものなり。


北洋に儼たり空の護り 淺井報道班員撮影 (海軍省提供海軍省許可濟第五七一號)

戰力增强へ
半島產業の使命重大
朝鮮銀行總裁 田中鐵三郎

一

燦然と輝く昭和十八年の新春を迎ふるに當り、恭しく寶祚の無窮を壽ぎ、榮えゆく皇國の御繁榮を祝福し奉り、幾多護國の尊き英靈に額づき、出征將士の武運長久を祈るや切なり。

大東亞戰爭の大詔渙發あらせられてより茲に一年、御稜威の下皇軍の赫々たる大戰果は、混沌たる世界情勢の裡に必勝不敗の態勢を固め、斷として日章旗の翻るところ、南北實に一萬粁、みたみわれいけるしるしありの念、今さらながら深きものあり、顧みて感激と讃へること新たなるものがある。

二

今や米英國の敵性包圍陣は寸斷され彼らの東亞制覇の夢は破れ皇國を核心とし日滿支の強固なる結合を根幹とする大東亞新秩序の建設は早くも礎石を据ゑるに至つた。然しながら、慘敗を續けつゝも敵は戰時體制の強化を圖り、生產力を誇示し、長期抗戰を呼號して反撃の機會を狙ひ、時に這般の意圖を具現し來るなどあなどり難きものもある。素より我に鐵壁の備へあり、聊も意とするに足らないが、仇敵米英を殲滅し、聖戰の目的を完遂するには萬民總力、一切を舉げて戰力の增强に邁進する以外何物もあるべきでない。特に現下の事態に鑑み、なほこの際まず〳〵努力を必要とするは生産の增强である。

三

生産擴充は既に戰時體制に整備されつゝあるが、生産分野の適正化の徹底と、資源の重點的配給による所謂生産能率の高度化についてはさらに一段の工夫を必要とする。

すなはち生產に要する資材の合理的配給はその重點と順序とを適正ならしめ、さらに資材の利用において益々これが効率を高度化してゆくことが考へられるのであるが、勞力の分布においてもまた然りで勞力の效率強化の外に、勞務訓練の增進についても一層意を用ひられ統制ある仕組の下にその活動はさらに著るしく強化される。今後企業の規模は相當の擴大をみるべく、この運營の上よりして生産能率の水準は一層向上を期待し得られるのであり、次に資材物資の生産は、官民の戰爭努力により著るしき好成績を收めつゝあるが、[illegible]るべく、殊に技術の施設と、これが適當なる配置等々による努力對策を進むることによつて今後一層顯著なる成果を收むることが出來るのである。

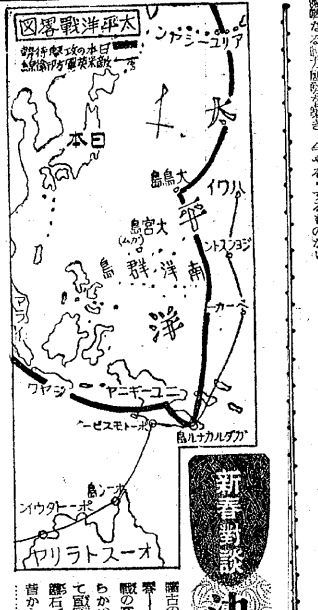
また企業の運營においても同樣で、經營の合理化により、[illegible]

四

朝鮮經濟の現狀をみるに、朝鮮においてもまた内地における戰時經濟施策の進捗とその步調を一にしてきたが、諸般の機構は整備せられ、時局に即應する經濟力の增强日に顯著なるものがある。かく[illegible]れることは、眞に力強い限りであつて、その間資材の補給、農産物の作付等幾多の重要なる事情が介在したにも拘らず、官民一體の努力が報いられ、逐次これらの支障を克服しつゝあることは、同慶の至りである。

金融界においては、さきに朝鮮金融統制會の發足するあり、斯界の緊密化は内地金融と[illegible]合し、資金の吸收に相協力し、金融統制の推移は極めて圓滑で、[illegible]界との連繫もまた、緊密を加へつゝある、内鮮一體としての經濟に[illegible]おいて、半島金融界の潑剌たる活動には益々みるべきものがあらう。

皇國は大東亞戰爭下第二回目の新年を迎へた、この未曾有の非常重大時局に際して、我々には前線銃後の區別なく、一億同胞は、皇國の姿さに深く思ひを致し、總力を擧げて聖戰の完遂に邁進すべきのみである。一昨年十二月八日皇國が敢然として米英兩國の擊滅に起上つたときの激しい感激を忍ぶとき、年頭我らはさらに新たなる緊張と努力と忍耐の念の激るを禁じえ、こゝに一死奉公の覺悟をいよ〳〵新たにする次第である。



新春對談 決戰時局を打診する【1】

曠古の聖戰大東亞戰爭下に迎へる第二回の新春——この秋に當り敵米英はいはゆる反攻作戰の發動に浮身をやつし、わが陣營の頭に何らかの衝擊を與へ得るかのやうに躍起となつて宣傳これ努めてゐる。この時、一億國民は鐵石の團結を固め決戰の陣容に立ちつつ悠々昔からのしきたり通りの新春を壽ぐ、まことにたのもしい限りだ。本社はこゝに末次信正氏、白鳥敏夫、尾崎士郎、末弘嚴太郎、小日山直登、中野正剛氏ら各界名士を煩はし新春と共に更に新たに一大決戰に臨むべき覺悟について本社編輯局來間恭氏との間に對談を催した、新春讀者への好個の贈り物たることを信ずる

打込む南溟の楔
斷じて退かぬ珊瑚海

來間 大東亞戰爭の滿一年を迎へまして緒戰から最近まで我軍の戰果は實に偉大であることを痛感しますが、一方では最近アメリカの戰意も相當昂まつて來たやうに思はれます、今こそ我が國民も政府も斷然、覺悟を新にする必要がありはせぬか、勿論今の日本に不忠な人間は一人もをりませんが、たゞ滅私と奉公だとか、擧國一致とかいつても具體的な強い力にはなりません、政府は政策の改むべきものがあれば自弊を排して改革を斷行するし、國民は國策の命ずる處に從つて日常生活でも行動でもどし〳〵改める、職業でも國家の命ずるまゝに轉へてゆくといふことにならないと當面の生産擴充だつてなか〳〵むづかしいと思ひます、それにつけても大東亞戰爭の現在の意味とその意義といふものが先づしつかり國民に判つてゐないといけないと思ひますが……

海戰新戰略

末次 私の戰爭觀は世間と少し變つてゐるかも知れないが、過去一年間の大戰果といふものは世界の歷史にも未だ曾てないやうな輝かしいものであるけれども、これによつてもうすぐ戰爭が片付くであらうと考へるならばそれは大きな間違ひであると同時にあれだけの戰果をあげたのにまだ戰爭はこれからだといふのはをかしいと考へる者があれば、それは戰爭の性質を知らないのだ、もと〳〵アメリカ、イギリスは日本と戰を開けば日本は三ケ月くらゐで參つてしまふと考へてゐた、つまり日本の實力を見縊つてゐたところがイザやつて見るとどうして豫想の想像もして居つたやうなものではない、非常な力を持つてゐる、日本の軍は平素訓練してゐるからその實力が外部にわからないが、その海軍力といふものは非常なものであつた

一とたび戰爭となつて制約がとれるとその海軍力は大爆發のやうに擴がつた、それが即ち開戰以來半年間の戰果なんである。しかしその勢力も爆發と同じで擴がるだけ擴がつてみれば結局落付くのは物理的といふか、力學的といふか當然のことであつて、開戰後の半年は一應の均衡狀態となつたのだ、そこで米英はこれではいけないといふので非常に戰爭を急ぎ、何とかして日本の膨脹を食ひ止めようと反撃態勢に出て來たのが珊瑚海々戰である、ところが却つて日本からひどい反撃をくつて慘敗退した、しかも日本の海軍陸戰隊は靜かにツラギ、ソロモン群島を確かな兵力で占領した、さうでなくても濠洲は危いのにソロモンまで取られては堪らぬといふので向うも準備を整へてソロモン群島の爭奪戰を起こし今度のソロモン海戰となつた、一體海上の戰といふものは日清、日露、或は前の歐洲大戰までは双方が海上の全力を使つてぶつかればそれで勝負がついて仕舞つたものだ、ところが今度の戰爭ではさういかない、何度も繰返し戰鬪が起るのであつて日本海々戰のやうな殲滅戰はないといふのは主として陸地に基地を持つ航空隊の働きが海戰の樣式を變へたからである

海の塹壕戰

來間 素人のわれ〳〵も薄々それを感じますが、も少し詳しくその點を說明して下さい

末次 今日では航空機が非常に發達してその攻擊力、戰鬪力は驚くべきものだ、また同じ航空機でも母艦から飛出すのは[illegible]陸上基地を利用する[illegible]のは艦隊の航空隊よりも強いわけである、たゞ艦隊や航空母艦ならば何千浬でも出て行けるといふ長所はあるが、しかし島を基地とする航空隊も航續距離は相當な所まで行く、その他の條件は艦載機よりはずつとよい、だから島を基地とする航空隊といふものは實に始末の惡いものになつて來た、ところでさういふ有力な航空基地がずつと繋がると海上に戰線といふものが出來る、今まではさういふことは考へられなかつた、例へば米國側についていへば濠洲のポートダーウインから木曜島の傍のポーン島、それからポート・モレスビー、それからガダルカナル島、ベーカー、ジョンストン、ハワイ群島とずつと繋がつて海上の戰線を成してゐる、日本はビルマ、マライ、ジャワ、ニューギニヤ、ソロモン群島、それから委任統治領の東部群島、ウエーキ(大鳥島)、グアム、それから日本本土、アリューシャンと繋がつて海上戰線が出來てゐる、かやうに戰線が相對峙することになると陸上戰の場合と同じやうに双方とも簡單に戰線を突破することは出來ない、恰も陸上の塹壕戰と同じことを非常に粘り強い戰をして一步々々進んでゆく外はない

語る人 末次信正大將 山口縣に生る、海兵海大卒業、第一潛水艦隊司令官として潛水艦發達に貢獻するところ甚大、軍令部次長、第二艦隊司令長官、聯合艦隊司令長官を歷任し、橫須賀鎭守府司令長官に就任、沈默の提督として部内の衆望を一身に集めてゐた、昭和十二年十月内閣參議に就任し、同月豫備役編入、同年十二月近衞第一次内閣の内務大臣、十五年八月新體制準備委員となり大政翼賛會中央協力會議長をつとめ、十六年九月轉長辭任、興亞スメラ塾の創設者青年子弟の訓育に専念してゐる、本年六十三歲

不退の體制

來間 全く耳新しい御說明で戰況の意味が非常によく分ります

末次 現在は海上戰線における攻防戰に火花を散らしてゐるわけだ、戰線の觀念があるとソロモン爭奪戰の意味がよく分る、ソロモン群島は日本の戰線の出つ張りである、向うから見ればそれだけ食ひ込まれてゐる、あれをもう一步進めると敵の戰線はニュージーランド近くまで押されて楔を打込まれたことになり、米濠の連絡は切斷されるのだから彼我の得失は非常なものである、それが苦し紛れにソロモンを奪ふが取つてそこから更にこちらへ押して來ればそれだけ日本の戰線がくぼむことになるのだから今は非常に大切なところである、國民はソロモン方面における戰の意義をよく辨へて大いに激勵せねばならぬ、このごろ世間で往々聞くが、あの島を一つ取つたらどうとか、取られたからどうとかいつて一喜一憂するのはいけない、作戰のことは軍に信賴して國内では出先の軍の働きよいやうに全力を盡くすことだ

要するに今の段階は日本の勢力が爆發して擴がるところまで擴がつた結果出來た一應のバランスを如何にして破らうかといふ場合である、つまり新しい段階となつて、戰爭はこれからといふところである、日本は過去一年の大戰果によつて一應不退の體制を確立したが、向うも相當な力のある國だ、資源も多ければ武力も持つてゐる、強い國と強い國との對戰だから簡單に勝敗がつかない、日米互に防禦の點からいへば非常に堅固である、日滿支に大東亞共榮圏といふものは非常に強いものだ、しかも我が陸海軍が協力してこの大東亞圏に踏ん張つてゐるんだから向うも容易にやつて來られない、しかしそれと同時にこちらから向うを攻めることも容易ではない、人によつては城下の盟をさせるなどと威勢のよいことを云ふがさう簡單に行くものではない

日本にとつて次の段階に大切なことは不敗の體制を强化することである、どの方面を强化するかは云はずして明かである、敵側としてはアリューシャン方面、或は支那を基地とする日本空襲も考へてゐるだらう、またハワイを根據地として海上からの空襲も考へてゐよう、しかしこれはさう容易に出來るものではない、出來るものならば既に今までにやつて居る筈だ、せい〴〵四月十八日の空襲程度のものは出來ようがあれでは何にもならぬ、さりとて日本は油斷してはならぬがビク〳〵することもない、敵の方は大本營と軍に信賴してゐて少くも不安はない

物心一如へ

來間 其點は全幅の信賴を捧げてゐますだけに國内がもつとしつかりしないと軍に申譯がない、生産方面で軍に後顧の心配をかけるのは銃後の恥辱だと思ひます、この際國内體制が格段によくならんといけないと思ひます

末次 問題は國内體制だ、國内の決戰態勢は物の方面と精神の方面と兩方ある、しかし物と精神を別々に考へるのは間違ひだ、生産力擴充といふことは開戰以來いつてゐるがこれもたゞ物の問題と考へるからいけない、これは物と心との一體の問題だ、とかく物が足りないといふけれども今日は大東亞戰爭前と違つて物はある、たゞ物の廻りが惡いだけだ、それもよくいはれるやうに點が足りないといふだけの問題ではないその點を最も能率的に使へば今の倍の能になるものと私は確信してゐる

これらは決して單なる物の問題ではない、むしろ人の問題だ、人の働き、人の精神の問題だ、人間はいきなり神樣になれるものでもなければ、機械のやうに働けるものでもない、また人それぞれ能力の差違がある、軍人においては同じでも任務に適不適がある、昨今は一番利巧な者を使はねばならぬ、傳令にもせよ射手にもせよ特殊の役目は誰でも勤め得る譯のものではないそれがために軍では人の配置に十分の注意を拂ひ、その努力に應じて軍人最高の榮譽たる金鵄勳章を與へてゐる、一般の人もさういふ風に値はねば効果が上らない、またよく『國家のために慾得を捨てろ、採算を度外視しろ』といふけれども人間は神樣ぢやない、働いて報酬を得るといふことが何千年のしきたりだ

採算が立つて初めて事業が動いて來る、それを無視せよといふのは無理だ、採算を立てろ、さうして最も合理的にやれ、しかしいまの國家は興亡の岐路に立つてゐるのだから自分の生活を維持する以上の收入は國に捧げよ、君に捧げよ、といふ風に運べば皆喜んで出すよ、要は爲政者が人の能力と性情とを見定めて皆が喜び勇んで働くやうに統制よろしきを圖ることだ、つまり人を活かして使ふか、殺して使ふかだ、統制などにしてもよほど改善の餘地がある、統制の必要がないやうなものにまで世話を焼いて重箱楊子式のことをやるために切つて有る物が出ない、そして餘料を眠らすなどは愚の骨頂である、惡いことはドン〳〵改めるがよい、しかるに一度發令すると面目にかけて固執するなどといふのは途方もないことだ、役人の面目よりも國家の方が大切ですよ、さういふ點を何より先に直さねばならぬなあ

我社新年度の六大事業

超高速度輪轉機增設
決戰下第二年の春を迎へて本紙の使命愈々重大なる秋、本社では、既設の超高速度輪轉機のみを以てしては激增紙面の要請に應じ得ぬ狀態となつたので、更に新鋭機を增設するとゝもに、既に據付工事中で近くその威力を發揮する筈である。

健兵錬成の歌(歌詞)募集
徴兵制の實施に備へて、普く一般青年に健兵錬成の氣魄を植付け以て盡忠報國の念を涵養すべく、二千四百萬同胞が聲高らかに合唱し得る力強い歌詞を募集することゝなつた。入選一篇、朝鮮軍司令官賞のほか賞金一千圓を贈呈、締切其他は追つて發表。

扶餘神宮御造營 朝鮮神宮間 武裝銀輪部隊錬成大會
南方戰線に活躍したわが銀輪部隊の勞苦並にその赫々たる偉勳を偲び、かつは[illegible]京城朝鮮神宮間二百四十七粁餘の武裝自轉車錬成を行ふもので、各道青年訓練所生徒をして挺身[illegible]遺憾なきを期して[illegible]

青年特別錬成所 優良團體並に個人表彰
[illegible]て各道に新設せられた青年特別錬成所の中より、訓練を通じて優良團體及び個人を推薦せしめ、本社においてこれが表彰式を擧行すると同時にかつ紙上に讃へ、半島青年層の新なる決意と一層の奮起を要望せんとするものである。

全鮮銃劍道錬成大會
決戰下の銃後に要請されるものは國民的士氣の昂揚、敵國擊滅の鍊成、國防技能の鍊磨である、半島同胞が一丸となつて征戰完遂へ邁進すべき秋、鍊成所生徒を網羅する各道對抗銃劍道大會を開催、國民皆兵錬成の資に供せんとするものである。

防空監視員 國境警備警察官 在滿開拓民 慰問隊派遣
(一)防空監視員慰問 慰問金品及び國民學校兒童の感謝慰問文を募り本社特派員をして擧行慰問せしめる。(二)國境警備警察官慰問 [illegible]慰問班を派遣する。(三)在滿開拓民慰問 皇國臣民として黙々[illegible]在滿朝鮮開拓民等を派遣慰問する。

昭和十八年元旦

京城日報社

今日も決戰明日も決戰
半島ホテル
京城府黃金町一丁目一八〇
代表電話本局(2)一八一一番 一七一一番

醫療藥品 體位向上資材
特撰救急箱 立正蛔蟲藥 發賣元
立正堂 株式會社
京城櫻井町二丁目一八一 電話本局②三三七〇番

御出張、御旅行、中小團體同ホテルとして最適
洋室 和室 一泊食付五圓、六圓
本三ホテル ホンサン
京城府本町三丁目
電話本局(2)六八一五番

朝鮮殖産銀行

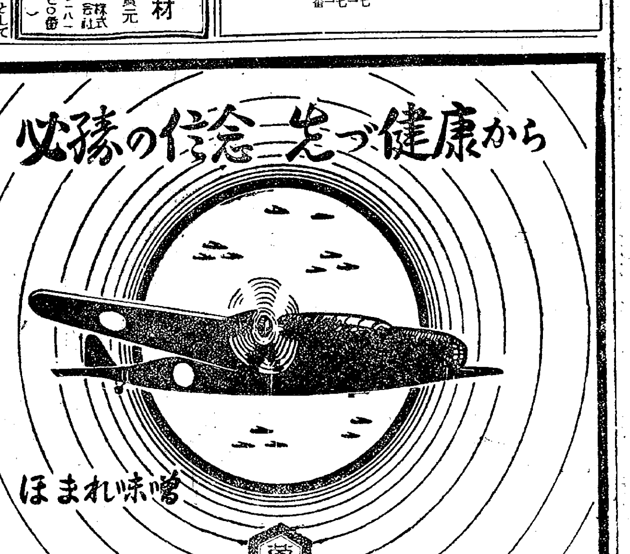
すべてを戰爭へ
朝鮮米穀市場株式會社

信用一等
みのや呉服店
京城本町二

ツマイ シンキリ
便秘 肩凝り 不眠頭痛 宿醉二日醉
腦溢血豫防 動脈硬化 高血壓 中風
有名藥店に

朝鮮總督府規格品
タイカ化粧料
發賣元 株式會社 第一化學興業所

ネオトン愛用者諸賢に告ぐ!
本位 效果
大御稜威の下戰勝に輝く決戰第二年を迎へ我等皇國臣民は前線銃後の別なく、一死以て君國に殉ずるの氣魄を以て職域に御奉公しなければならない今日に際し弊社も健民強兵の國策に順應し一般國民保健と體位向上運動を鼓吹し擁護して已まない次第であります。
弊社が從來新聞、雜誌、柳韓保健、家庭治療等の諸刊行物を通じて健康增進に努力して來たる重大目標の一つも衛生向上と國民保健の正當なる知識養成でありましたが 最近に至りては原料難の爲め品質と効果が低下せる類似の藥品が市場に現れ益々藥品問題に對する知識が必要となつて來たることは御承知の通りで御座居ます。
現在各大小病院の醫師先生並びに一般から愛用されてゐる弊社のネオトンも原料の爲め需給を圓滑になし得ぬことは、國民體力の向上を切實に要求する今日甚だ遺憾千萬に存ずる次第で御座居ます。
從つて弊社としては當面せる難局を打破し國民保健の眞の目的を促進せんが爲め不得已特需の他は一般への供給量を制限すると同時にネオトン本來の品質と効果を飽くまで死守することに致して居ります。
[illegible]ネオトンが必要なる方々にだけは供給の圓滑を期せんが爲め最大の努力を惜まない覺悟ですから何卒[illegible]諸賢には今後も[illegible]の愛護と御鞭撻を賜らんことを御願申上ます。
株式會社 柳韓洋行 白

必勝の信念先づ健康から
ほまれ味噌


上—井原參謀課長 中—倉茂報道部長 下—奥平教授

勝ち拔く日本の構へ

本社主催 井原、倉茂兩少將と奥平教授鼎談

赫々たる大戰果の歴史的な榮光の中に暮れて行つた昭和十七年、そして新しく迎へた昭和十八年—大東亞戰爭は愈よ第二年目に入つたこの輝かしき戰勝の新春劈頭、われ〳〵一億國民のまづ考へるべきは戰爭の現段階に對する再認識と一億火の玉の總力を結集して聖戰完遂に備へる必勝不敗の國內體制の完備といふことである。われ〳〵はこの年に迎ふべき戰爭を決戰と呼ばう、そしてわれ〳〵銃後の生活に決戰體制を布かう、正に戰爭はこれからである、勝ち拔く日本の構へに聊かの懈怠もあつてはならぬのである。本社はこゝに鑑みるところあり、朝鮮軍參謀課長井原潤次郎少將、同報道部長倉茂周藏少將および城大教授奥平武彦氏の三氏を煩はし鼎談會を催し、奥平教授の司會によつて兩少將より戰爭の現段階に對する國民の再認識、國內體制整備に對する國民の覺悟そしてわが朝鮮半島の必勝不拔の構へなど當面する諸問題について明快率直なる意見を聴くことを得た。決戰下愈よ不退轉の決意が益々に要請せられる折、三氏の意見は大いに傾聴すべき高説であることを信ずる。以下は鼎談會の速記である

鼎談する人々
井原潤次郎少將(朝鮮軍參謀課長)
倉茂周藏少將(朝鮮軍報道部長)
奥平武彦氏(城大法文學部教授)

決戰場へ躍込め

最後、五分間の頑張り

奥平 われ〳〵にとつてアジアの夜明け、また新しい世紀の元旦といふべき日は宣戰の大詔が渙發された十二月八日であつて、この曠古の大戰を勝ち拔くためには正月もお盆もないのであります。しかしこの新年の改まる新春といふものは新しい心持ちをもつて全戰局を眺め、この戰に勝ち拔く心構へをさらに強くする機會であらうと思ひます、いま新春劈頭の皇軍の最前線を眺めてみますと、蒙疆から支那本部の西を南に迂り、雲南省から印緬の國境に達し、印度洋にのびアンダマン列島からスンダ列島を經てニューギニヤ、ソロモン群島を連ね、それから大洋を經てアリューシャン列島に至つてゐるのであります。更にまた千島列島から北滿の國境に至る北方の護りは嚴としてゐる狀態であります。この戰線の範圍はヨーロッパにおけるノルウエーから北アフリカの沙漠に至るあの戰線に比較しても皇軍の第一線の方が比較にならないほど廣汎なもので、大洋と大陸と兩方に亙つてゐるといふことにおいても比較にならぬと思ふのであります

これは古今東西に嘗て例のない大きな戰爭形態を樹へてゐるのでありまして、この戰局を眺めただけでもわれ〳〵に課せられてゐる任務がどれだけ重大であるかといふことに思ひあたらねばならぬと思ひます、で第一線將兵に後顧の憂ひのないやうに國內の政治體制は完璧を期し得るかどうか、また第一線に武器彈藥、糧食を送るに缺くるところはないか、さうして赫々たる戰果に應へる東亞の建設事業は順調にいつてゐるかどうか等々いろ〳〵と反省させられる問題があると思ひます、しかして銃後のわれ〳〵に課せられた重大な任務を果すにはその根本に横はる前提の一つは戰局の現段階の確たる認識であるのであります、この認識の深化によつてわれわれの心構へには一段と緊張するわけでありますが、現在までに到達してゐる戰局の段階をどう御覧になりますか

井原 昨年十二月八日以來の戰果が非常に華々しかつた結果として、各方面の非常時といふものに對する認識が著しく弛緩したといふか、緩和されたといふか鈍化を來したのではないかと思ひます、從つてこれが國內的にも對外的にも、いろ〳〵な影響を與へて來たのが昨年の春ごろから暮までの間ではなかつたかと思ひます、その影響を與へた方面はいはゆる思想的にも、經濟的にも、また建設の上にも生産の面においても、さういふ面が多少現れて來てゐるのであります、そこでたゞ今お話のあつたやうに戰爭の段階がどこまで行つてゐるかといふ、その段階を確認しなければならぬといふことになりますが、私の考へとしては北はアリューシャンからミッドウエー、ハワイを經てフイリッピン、香港、この海岸を連ねる線と、さらに蔣介石を支援してスターリンと結ぶ線ソ國境と支那大陸のこの線に沿つて包圍態勢を整へしかも武備を擴充して日本をして戰も出來ぬ思ひをさせたのであります、その結果として十二月八日宣戰の大詔を拜したわけでありますが、その大詔の中にも仰せられてゐるやうに日本は死ぬるか、生きるか、生死の關頭に立たせられたわけであります、宣戰の大詔を拜しまするや海戰の戰果、陸戰の戰勝となつてたゞいま奥平先生が述べられたやうに北はアリューシャン列島から南方海洋の諸島を結び、その包圍してゐる莫大な資源をも獲得したのでありますが、これを連ねる線といふものは、これは一つの線に過ぎないのでありまして、依然として米英の線は北はアリューシャンからミッドウエー、ハワイを經て濠洲へ結ぶ線、さうして印度およびビルマの國境、更に支那は依然として蔣介石、北も同じく對迫態勢をとつてゐる現狀で、その間多少緩和されたとはいひながら、なほこの線を基地としてゐるのであります、でこの線を突破し、アメリカを屈伏せしめニューヨークとロンドンで觀兵式と閲兵式をやらなければならぬといふことから考へますれば現段階は本當に緒戰を一歩出たに過ぎません、本當の戰爭は寧ろこれからで今日以後に置かれてゐると考へなければなりません、しかもその困難性は資源的には豐富な地域ではありますが、これは相當に荒されてをり、またこれを開發し、これを運ぶためには相當に輸送の困難性も伴つてゐるといふことを考へれば桃太郎が鬼が島を征伐しただけで全部が終つたといふわけにはゆきません、ところが占領さへしたならばそれで全部が終つたといふやうな考へをもつものが國民のどこかにあるのではないか、戰爭はこれからだといふ覺悟をもつて、しかもかくの如き考へを清算して進むのが戰爭第三年に處する國民の信念であらねばならぬと思ひます

昨年十二月八日宣戰の大詔を拜した當時の米英軍は作戰的にも不完全であり、就中相手は殖民地兵であつたゝめ、これに懲りた米英が立直しをして、こゝに一年、相當の立直りをしつゝあります、しかもその軍隊は本國軍隊であります、さういふことを考へると、いたづらに戰果に醉ふことなく、いよ〳〵本腰を入れてかゝらねばならぬのであります、これからが横綱と横綱の相撲でいまゝでの相手は幕下にも入らぬ相手で、これからいよ〳〵三役の勝負となるわけであります、非常時といふものは物があつたり、總てのものが完備してゐるものではなく、物がなく、また人も足らず不便、不自由、困難が伴ひ、これを突破して行く、これが本當の非常時の心構へで、これを認識しさうして今後の段階としては印度に濠洲に徹底的に勝ち拔いて米英をして城下の盟をなさしめなければならぬと思ひます

倉茂 私も相撲に關聯して常に考へてゐますが、現在における皇軍の戰果は恰も相撲取りに足場が出來たやうなもので、本當の相撲はこれからだと思ひます、いつどこから來るかわからぬその相撲に勝たなければならぬのであつてわれ〳〵はその相撲に勝ち得る光榮と愉快さがなければなりません、なにも非常時だからといつて悲觀することなく明朗に愉快に進むことが最も必要だと思ひます

奥平 [illegible]年目に決戰の連續する深刻な長期戰の段階に入つたのであります、この段階は歐洲において顯はれてゐる戰爭も同じやうに米英の方の反擊が開始されて、ドイツの望むやうな電擊戰は大體望まれなくなつただらうといふことがはつきりしたと思ひます、でこの大東亞戰爭は米英を相手にする限り世界戰爭の規模と性質をもつもので世界戰爭であるといふことはつまり東亞の戰局は直ぐにヨーロッパの戰爭に響きをもつて、われ〳〵のやつてゐる大東亞戰爭の局面々々といふものは世界の注視を浴びてゐるばかりでなくヨーロッパの戰局と非常に關聯してゐる、そこでヨーロッパの戰局の推移といふものもわれわれにとつて非常な關心を呼ぶことになるわけでありますが、ヨーロッパの戰局殊に中立地帶である北アフリカのフランス領に米英が上陸して以來のヨーロッパの戰局についてお話を承りたいと思ひます

期待はづれの米英

井原 ヨーロッパの戰局については私はかういふやうな考へをもつてゐます、歐洲戰爭が始まり次いで支那事變となり、東洋に世界の注目が集められてゐる間にヒトラーの頭腦は着々進んだわけであります、つまり日本の力戰奮鬪、世界を相手としてゐる大局が東洋の戰鬪に轉ぜられてゐる間に、それに乘じてヒトラーが手を伸べた、でいはゞこちらが主で歐洲は附隨して起つたもののやうにも考へられます、從つて日本の戰鬪といふものに對してドイツはこれを唯一の賴りとしてゐるわけであります、イタリーはドイツにも賴り、日本にも賴り、寧ろ東の方に手を合せて拜んでゐるやうにも考へられます、從つて日本が戰勝することによつて歐州の戰局および世界を早く安定もさせ樞軸側の目的も達成することが出來るのであります、北阿の戰況なり或ひは西アフリカの戰況といふものはいろ〳〵波瀾があり、今日ダルランが暗殺されたといふことが傳へられましたが、また一つの大きな變化が現はれると思はねばなりません、一方ソビエートロシヤの現狀はどうかと申しますと、先づ餘ほど苦しんでゐるものと見なければなりません、就中食糧難、物資難は相當深刻なものがあるので、スターリンは恐らく、今冬を乘り切ることに非常に苦難を感じ、こゝにおいてアメリカにその援助を促し何を問はず第二戰線の形成を促してゐるだらうと思ふのであります、しかもその第二戰線もフランスに形成するとが不可能になつた今日まづアフリカ方面から兵を進めてイタリーを樞軸側から切り離したいと考へてゐる模樣がありますが、いづれにせよ、ソ聯に向けられてあるドイツの軍隊をその正面から引き下げるのが目的であります、それならば米英軍が今度のアフリカ上陸作戰において、五百隻ばかりの船でもつて殆ど無血上陸に成功したとはいふものゝ果してその效果は十分であるといへませうか、ソ聯の正面からドイツ軍の大量撤退が行はれたかどうか、現在ドイツが對ソ戰に動員してゐる兵力は凡そ二百八十ケ師といはれてゐますが少くとも第二戰線を形成する以上、二百八十ケ師のうち百ケ師位は拔くだけの戰線をつくらなければ、第二戰線の意味はないのであります、しかし上陸に成功したことは確實であり、また多少のドイツ軍隊を引き留め得たといふことも明瞭でありますが、その量たるや微々たるもので、スターリンが希望してゐる百分の一位のものではなからうかと思はれます

次に米英軍が上陸したアフリカ戰線は果してうまく行くかどうかといふことになりますと、先づ補給問題、就中航空關係で或ひは行詰るのではないかと思はれるのであります、飛行機は飛んで行けるが、油は海上から運ばなければなりません、その油と飛行機が結び合つて初めてイタリーも爆撃出來ますが、まだそこまでは行つてゐない、千機內外のものは持つて來てゐるやうでありますが、イタリーはまだ爆撃されてをりません、恐らくアメリカの戰爭準備はまだこゝまで行つてをらず、そこでアメリカは五百隻で運んだものをあの沙漠地方でしかもドイツ潛水艦活動の前で維持補足して行かなければならぬといふ非常に苦しい補給戰が續くものと考へねばなりません

奥平 たゞいま伺ひますやうに、皇軍が擧げた赫々たる戰果は盟邦軍の士氣を鼓舞して、その戰略戰術を劃期的なものにしたことは勿論でありますが、開戰以來わが國が戰史に嘗てないいろ〳〵な作戰をなし、史實の上に新しい戰訓を與へて來たことも見逃すことは出來ませんが、それと共に世界を非常に瞠目させてゐることは、皇軍が今まで擧げた戰果の中に陸海軍が非常に緊密に協同して作戰して行つたことであらうと思ひます、現在ソロモン群島殊にガダルカナル島の戰鬪なども、もしこれが公になつたならば、陸海軍の協同作戰の妙に世界は更に驚嘆するであらうと考へますが如何でございますか

井原 實際今度の戰爭では陸海軍仲よく、本當に一體となつての戰爭を遂行してゐます、海軍の欲するところは陸軍の欲するところ、陸軍が欲する時は海軍必ずこれに協力して、兩方苦しいところを同時にし合ひ、自分の都合とか、便宜といふものを放擲して渾然的に協同して進んでゐるわけであります

奥平 陸海軍の緊密なる協同によつて大陸と大洋に跨る非常に困難な作戰が遂行されてゐるわけであります、われ〳〵は南太平洋に於て行はれてゐる海戰を數千里先で行はれてゐる戰鬪とは思はず戰局を身近に考へてゐるわけであります、これはソロモンの海上と朝鮮の近海が海によつて繋がつてゐるといふことだけではなく、また航空機の發達によつて空間距離が非常に短縮されてゐるからでもないと思ひます、要するにわれわれの戰つてゐる戰爭は戰線と銃後との區別がないといふ自覺によるもので、日露戰爭の際、明治卅七年五月『初瀨』が沈み『吉野』が沈んだときには、戰爭を追るだけの通信が完備されてゐなかつたのでありますけれども、今日においてはわれ〳〵の努力如何では幾らでも戰鬪が出來るといふ狀態にあるのであります

ところでこの戰爭は非常なる消耗戰であるといふことは何人も知つてゐるところでありますが、この消耗を補給する態勢は銃後にあるわけであつてこの一大消耗の大戰爭下朝鮮に課せられた戰力の補給といふ問題、これはどういふやうに、どういふ方向に進んで行くべきであるか國防國家體制を確立し、これを強化しつゝあるわけでありますが、どういふ方向に重點を求めて行つたらよいものかその點を伺ひます

倉茂 前の問題になりますが陸海軍の協力がよいといふことは世界各國いづれも驚いてゐるところであります、これは他のいづれの國と雖も眞似の出來ない點で陸海軍共に己を捨てゝ天皇に歸一して奉ずるといふ精神があるからこそであります、このことは第一線も銃後も亦同じであらねばなりませんし又これによつて日本が勝つてゐるのです

總てを戰爭へ

半島の持味を生かせ

井原 朝鮮の役割について私はかういふやうに考へてをります、國を勝るためには、昔であつたならば三千萬の人口でよかつたといはれてゐます、ところが今日世界に伍して行くためにはどうしても一億の人口がなければならぬと思ひます、今日の日本は如何かと申しますと、朝鮮半島の二千四百萬を加へて一億、更に滿洲國の協力を得ると一億四千萬で、かうなればアメリカの人口が一億三千萬でありますから數字の上からは似たり寄つたりのところを行くわけであります、かう考へますと二千萬や三千萬の人口でもつて獨立の態勢を整へ抗爭を續けて行くといふことは全く不可能で、半島同胞はどうしてもこの際皇國臣民になり切つて行くことが最も賢明なことであると思はれるのであります、且つ朝鮮としてはこのことを一番先にやらなければならぬことゝ思ひます、さうしてまた日本海の湖水化、さらに黄海の湖水化といふやうなことを考へた場合その中間にある朝鮮の使命といふことともこれと結びつけて考へねばならぬと思ひます

倉茂 私はやはり相撲でいつたならば朝鮮は一人の相撲取りの一體の中の一部分であり、相撲に負ければ自分も負ける、そこで全體の一部分も全力を注いで勝つやうに力を出さなければ駄目だと思ひます、それでどういふものを朝鮮に要求するかと申しますと總ての戰鬪力を出すところの物的、精神的方面において、またはその他の方面において、朝鮮のよいところをどこまでも伸ばしてこれを利用して行くといふことで、この點に期待をかけてゐる次第であります

奥平 大陸前進兵站基地といふ言葉が擧げられ、朝鮮經濟の重要性がこれに關聯してから間もなく支那事變が起り、それが進行して大東亞戰爭にまで發達して來たのであります、その間朝鮮を繞る國際環境もかはり、全く今までにない新しい時代に突入したわけであります

ヒトラーやムッソリーニがいつてゐるやうに、日本は南方の資源を手中に收めて一躍持てる國になつたといふのであります、しかし國民の中には南方圈に幻惑され北方圈の重要性を等閑に附してゐる傾向はないものか、また朝鮮のもつ經濟的特性は今日以前よりもいよ〳〵その重大性を增し大東亞共榮圈內の地位を確乎たらしめてゐますが、その邊の御見解は如何ですか

倉茂 要は戰爭を長期戰と考へて永い計畫で行くか、或ひは決戰の連續で行くかといふ問題によつてこの問題は考へられるのではないかと思ひます、戰爭は各々の決戰に勝たなければ最後の決戰に勝てん、ところがその決戰はいつ來るか分らぬ、今日の決戰あすの決戰を考へて全部が進まなければならぬ、若しも永い計畫であつたならば今日の決戰に勝つやうなことを考へ、なほ次の建設といふことも考へて行くやうになるのではないかと考へてゐます

井原 やはり朝鮮の持てる持味を最大に生かして行く、さうしてそれを發揮して行くわけでありますが、それには滿洲事變の時には、それ滿洲だ、支那事變にあつてはそれ北支だ、中支だといふやうに遂次代つて來つゝあり更に南方に戰果が擧ると今度は南だといふやうに變化を來してゐるやうに思はれるのであります、しかし朝鮮の持味は依然として朝鮮の持味を持つてゐるのであります、然らば朝鮮の持味は何かと申しますと滿洲國をへだて支那大陸その他に對してゐるといふことで、この點朝鮮が有力な基地となつてくれなければならぬと考へます、その意味において少しずらされる時代認識といふものが必然的になつて、四方八方を眺觀し朝鮮の持つよい特質をさらに發揮させて御用に立てるやうに進められたいものであります

奥平 私はわが共榮圈の指導者たる地位に立つてゐるためには、この廣大なる地域を完全に防衞する國防力が先づ第一に必要で、今一つはこれらの地域から生み出される原料品を完全に消化する工業力を持つことであると思ひます、もしわが國にこの工業力がなかつたならば、アジヤから出る原料品は皆他に行つてしまふわけであります、從つて朝鮮の工業といふものはます〳〵進められなければならぬと思ひますが如何でせう

井原 長期戰といふことを基礎とした考へ方、戰後の情勢を基礎とした考へ方といふやうなものもありませうが、先づ現在はその直面してゐる思想戰にも、生產戰にも、第一線の武力戰は勿論のこと、勝ち拔くだけの要素は絶對に作らなければなりません、そのことを考へると幸ひにこの朝鮮は人的にも惠まれ、また勞力、電力的にも惠まれ、また資源的にも、大陸にも、海洋にも惠まれてゐるので、生死の關頭に立つ日本の大戰爭の中に飛び込んでしかも總力を發揮してかゝつて行かねばならぬと思ひます、これがためには生產戰にあつても、資源開發方面においても、日々行はれる決戰に勝つために血みどろになつて進んで行かなければならぬと思ひます、これは步兵操典の綱領でございますがこの十二項は實は操典の生命でありまして、その字句はたゞ頭の中で考へ筆の先でひねくつたものと違つて血でもつて購はれた字句であります

第一 軍ノ主トスル所ハ戰鬪ナリ故ニ百事皆戰鬪ヲ以テ基準トスベシ而シテ戰鬪一般ノ目的ハ敵ヲ壓倒殲滅シテ迅速ニ戰捷ヲ獲得スルニ在リ

と書いてあり、これが字を置き替へて見ますと『國の主とするところは國是の貫徹にあり、故に百事皆國是貫徹を以て基準とすべし』といふやうになり、これは如何なる場合にもあてはまるよい文句であると思ひます、そのつぎには

第二 戰捷ノ要ハ有形無形ノ各種戰鬪要素ヲ綜合シテ敵ニ優ル威力ヲ要點ニ集中發揮セシムルニ在リ
訓練精到ニシテ必勝ノ信念堅ク軍紀至嚴ニシテ攻擊精神充溢セル軍隊ハ能ク物質的威力ヲ凌駕シテ戰捷ヲ完ウシ得ルモノトス

これも字句をそれ〳〵の位地に應じて、また立場に應じてあてはめると、それ相當に有り難い文句になりますが、殊に『訓練精到ニシテ云々』の字句を國民に入れ替へてみますと『訓練精到にして必勝の信念堅く規律嚴正にして攻擊精神充溢せる國民は能く米英の物質的威力を凌駕して戰捷を完うし得るものとす』といふやうになるわけであります、また

第三 必勝ノ信念ハ主トシテ軍ノ光輝アル歷史ニ根源シ周到ナル訓練ヲ以テ之ヲ培養シ卓越ナル指揮統帥ヲ以テ之ヲ充實ス…

これをまた置き替へて見ますと『必勝の信念は主として帝國の光輝ある歷史に根源し、周到なる訓練を以て之を培養し…』とかういふことになるわけであります、われ〳〵は必勝の信念をもつて飽くまで一億一心、動搖するやうではいけないと思ひます、つまり『必勝の信念は主として皇國の光輝ある歷史に根源す』といふやうなことがこの步兵操典にあるわけでありますから、この操典十二項だけは兵隊以外の方々も時々讀んで戴きたいと思ひます

不平一掃へ

敵國民は四苦八苦

倉茂 一般の人達は自分の國のことだけ知るのでいろ〳〵な不平も起るのでありますが、敵はどういふやうにしてゐるかといふことを知ると結局自分の苦が苦でないといふことが分ります、で各國の生活狀態、各國の內容を檢討してみると、日本特に朝鮮ほど惠まれてゐるところはないと私はみてゐる、いろ〳〵と例をもつてみましても、重慶は日本と同樣長い間戰爭をしてゐるのでありますが、重慶の國から例をとつて見ますと、事變以來物價は加速度をもつて昂り、特に昨年の十二月大東亞戰爭勃發後においては特にひどく、大東亞戰爭勃發前の價格より今の價格は約廿倍に上つてゐるといふやうな狀態であります、從つてインフレも起り物價指數をみますと民國廿六年の上半期を百としたら卅一年九月には千三百卅六といふやうな指數を示してをります、生活必需品中の米の現在價はこれは地方によつて若干違ひますが、重慶附近の如きは公定三百八十元でありますが實際は七百元であります、今年九月におけるパン一斤が六元五十錢、豚一斤が四元五角、牛肉一斤が七元、卵一ケが九十角その他非常な値段であります、そこでこれで一番困るものは官吏で從つて官吏の不正または汚職とかいろいろなことが生じてくるわけである、次はロシヤですが、シベリヤ方面に撤退してくる住民は殆ど裸で、この冬をどうして越すかと思はれるくらゐであります、食糧は政府が決めたところのものは非常に安いけれども、一般國民は殆どその値段で買ふことは出來ず、高いものを買はされてゐる現狀であります、ロシヤの特色として公定價格はあつても市場においては非常に高い値で買ひ共產主義の國でありながら政府もそれを許してゐるといつた有樣で、公定價格と市場で買ふ價格の差は非常なもので、例へばパン一キロの公定價格は二ルーブルであるにも拘らず市場で買ふパンの値段といふものは八十ルーブルから百ルーブルで喰ふにも喰へないといふのがソ聯の現狀であります、衣服に至つてはなほさら深刻なものがあるわけであります、またフランスあたりでは馬に公定價格があつたり鼠に公定價格があつたりする程で國民生活は非常に窮迫を告げてゐる現狀でありますが、それでもなほかつ甘んじてゐるといふ狀態であります、これらのことを考へる時、われ〳〵はこんな有難いところにゐて、それでゐてなほ不足を述べ工夫もしないで、また物をうまく利用するといふことも考へないで不平をいふことは實に申譯ないことゝ思ひます

奥平 前大戰の時フランスは御承知の通り敵國から包圍はせられなかつたが、それでも煙草がなくなつて、草の葉を巻いて喫煙してゐたといふことであります、要するに戰爭をやつてゐる以上生活上の忍苦鍛錬を受けることは當然でありますが、不平が出るといふのは他の交戰國の狀態を知らないからで、まづ他を知らせるといふことは最も必要なことですね

倉茂 ロシヤについて特に感ずることは、それほどまでに飢ゑ襤褸〳〵の被服をまとつてはゐますが、武器その他兵器材料のラジオとかマイク、かういつたものに對しては實によく研究し努力して、陣地を作るためには幾ら金を費しても惜まないといふとであります

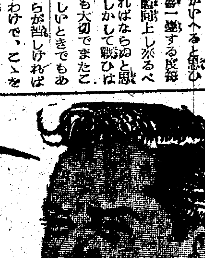
井原 實際その點は徹底してゐます、捕虜が懷から出すノートは實に粗惡な紙で、鉛筆もお粗末なものではありますが、聽診器とかレントゲンなどに至つては實に精密なものを持つてゐます

奥平 それでは最後に戰局の見透しは何人も困難であらうと思ひますがヨーロッパの戰爭は既に五年目に入り、大東亞戰爭も足掛三年になります、この新しい年一年といふものが戰爭全體の運命に關する最も重大な年ではないかと思ひます、今後も米英は反擊に出ることでありませうがそれを叩けばまた反擊に出て來る、かういつたことが今後相當續くでありませう、しかしその間にあつて日本はヨーロッパの樞軸國と一つの連絡路を作るといふことが戰局を決定づける上に非常に大事な點ではなからうかと思ひますが、その點如何でございますか

井原 大きな戰爭指導のことは分りませんが、恐らく樞軸三國が相提攜して物心兩方面だけでなくあらゆる點において手を握つて行くといふことは絶對に必要なことゝ思ひます、アメリカのいふ十九年以降でなければアメリカの反攻は出來ないといふことを若し信じてそれまで安心してゐる國民が一人でもあつたとすれば、それは完全にアメリカの謀略にかゝつたものといはねばなりません、しかしこゝにおいて日本は滿洲事變以來長い間戰爭に慣れて隨分苦しめられて來たお蔭で現在の一喜一憂は十年前の一喜一憂とは雲泥の差があるといふことがいへると思ひます、で今後は一喜一憂する段階に大國の襟度を鍛錬向上し來るべき決戰に備へなければならぬと思ふのであります、しかして戰ひは最後の五分間が最も大切でまたこの五分間が最も苦しいときでもあります、然しこちらが苦しければ敵はなほ苦しいわけで、こゝを押し通さなければ戰ひには勝てるものではありません、多田參謀が陷落した香港攻略にしても、ブキテマ高地の戰ひにしても、ジャワの戰鬪においてみても、最後はどうなるかと思はれるほど、敵はなかなか降參して來ない、その間こちらも苦しいが敵はなほ苦しいわけでこの苦しみを押し通す、つまり最後の五分間を押し通すと、遂に敵は白旗を揭げてくるものであります、要するにひとふんばりが戰爭の勝敗を決する要因になるわけでわれ〳〵國民個人々々の腹の底の力、忍耐力、頑張り、これでもつて押し通して行けば戰爭には必ず勝つと思ふのであります、皇國の光輝ある歷史に激勵して、それに培はれるわけであります

元旦試筆 朝鮮總督 小磯國昭

透徹於國體本義


サグラシン 櫻浸
感冒咳 痰咳 百日咳 氣管支炎 肺結核の から咳
等々に優秀・卓効の藥効をお試し下さい。全國有名藥店に有り
カゼシリビン本舗 樂天堂製藥株式會社
¥.30 ¥.50 ¥1.00

營業種目
家畜ノ增殖、改良事業
家畜及畜產物ノ取引事業
牧場經營事業
畜產製造事業
家畜飼料ノ調製及配給事業
前各號ニ關スル附帶事業並投資
設立 昭和十四年十一月六日
資本金 壹千萬圓
朝鮮畜產株式會社
取締役社長 岡崎哲郎
專務取締役 大場義雄
本社 京城府黃金町二丁目一九五番地
電話本局(長) 二三一・六六七 六六〇七番
釜山出張所 釜山府凡一町
仁川營業所 仁川府
浦項營業所 慶尚北道浦項邑
鎭南浦營業所 平安南道鎭南浦府
元山營業所 元山府
城津營業所 咸鏡北道城津邑
東京出張所 東京市芝區高濱町
下關營業所 下關市細江
敦賀營業所 敦賀市泉
義州通工場 京城府義州通

寒さに尚、美しくなる！
レシチンパパイン配合の藥効により、お肌をシンから生き〳〵とさせ、キメ細かな彈力ある健康美肌に作りあげます
公品
(姉妹品)
モビアン洗顔クリーム
モビアン粉白粉
(全國藥店、化粧品店、百貨店に有)
大阪・京城 東洋商會
モビアン藥用クリーム

若劇 三十日より上映時間表 ニュース 吾等今ぞ征く 松竹興亞映畫大作 幽靈大いに怒る 一月一日より七日まで早朝興行致します

喜樂館 新春第一次 二十九日より上映 日本ニュース 漫畫 文化映畫 ワン公の武勇傳 鬪ふ農村 阪妻三郎の 海の豪族

正月 劇團高協公演 金兌鎭作 春は上海に 三幕五場 演出…金昌根 裝置…林明善 一日より五日まで(五日間) 晝十二時 夜六時半開演致シマス

京城鍾路文化劇場 卅一日より正月二日迄(五日まで早朝興行) 1新春漫畫祭 2アサヒホームグラフ 3子寶行進曲 4サーカスの巻 馬術を說く 5日本ニュース 匪賊退治の巻

京城文化映畫劇場 元日より六日間 花山演藝團

朝日座 青春座 大地の母 四幕六場

東洋劇場 正月元旦より五日まで(五日間) 晝夜二回上演致シマス

新富座 卅一日より二日まで 賀正 日本ニュース 文化映畫 蘭花地帶 木蘭從軍 中國第一の名花 主演

桃花劇場 卅一日より二日まで 賀正 日本ニュース 文化映畫 農民歌國の幸 迎春花 主演

新生の息吹も高き共榮圏各地

勝鬨に明ける第二春
雄々し、建設への槌音

勝鬨の響と共に、支那大陸に、南方占領地の各地に、輝かしき戰捷第二年の新春が訪れた、曾ては米、英、蘭の飽くことなき魔手に擧き虐げられたこれらの地も皇軍ひとたび起つて破邪の正劍を振へば、天日明朗、神ながらの亞細亞の國々としての本來の姿に立還り、今や大東亞共榮圏の一翼として力強く立上りつゝあるのだ、も早や戰火に彩られた往時の暗い姿、戰火に煤けた陰慘な面影が人々の何處にしのばれやうか、颯爽として はためく日章旗の下、大東亞の隅々に到るまで、孜々たる民衆の復興への營み、建設への高らかな歩調が力強く轟き渡つてゐるのだ、以下は大東亞戰下第二回目の新春を迎へるこれら共榮圏各地の現況と新生の息吹きを、同盟通信社現地支局からの通信によつて訊くことにしよう

駝鳥主義を一擲
約束される大中繼港
香港

皇土香港はこゝに第二回目の新春を迎へた、想へば昭和十六年の聖誕祭は英國最後の日であつた、この日ユニオンジヤツクの旗は香港頭からひき下され、日章旗が燦然と最高峰、香ケ峰の上に翻つた、それから一週間、東亞人の手に歸した香港は最初の新年を迎へた

香港神社初詣で

去年の新年は慌しくも多忙の新年であつた、元日から軍政廳では香港建設のための會議が晝夜を分たず續けられ、役所は着々と實行に移された、四日には敵國人收容令が發せられ香港防衛隊が力強く第一歩を踏み出した、十日にはバスが運轉を開始し、十一日には映畫館が開かれた、しかもそれは陣中の新年であつた、攻城戰の勇士達は山から松の木を伐つて門松を飾てた、住民は白紙に赤インクで畫いた日の丸の旗を掲げて祝意を表した、今年の春はそれに比べてなんといふ整然とした大都市の新年であらう、明治通の事務所街、山腹の住宅街には門松が清々しい、港には南方からの貨物船、珠江通ひの河船が南の風に日章旗をはためかせて碇泊してゐる、華僑たちは老若男女となく『お目出度う』を口にする、一年の間にかくも日本語が普及したかと心強い限りである、香ケ峰の麓大正公園には香港神社造營敷地の木柵、また躍進ニコルソン山の西方高地には忠魂碑敷地の木柵が立つてゐる、昭和十八年の新春には香港の在留同胞はこの忠魂碑の高地で初日の出を拜し、木の香も高い香港神社に初詣をすることになるであらう

頽廢と奢侈一掃

初春の香港の街の姿を見て過去の英國支配時代の香港を想ふと、先づ第一に驚くことは都市生活の緊張ぶりである、かつての香港の除夜には香港ホテル、グロースター・ホテル等の大廣間には脂と白粉の香に充ちて夜を徹してのダンスが行はれたものであつた、當時香港には五百人の百萬長者がをり、これをめぐつて五萬人の美女が住むといはれてゐた、支那事變の後『賭場』にする職人や銀行家が享樂をむさぼるあらゆる便宜が備つてゐた、そしてシヤンデリヤの煌々と輝くホテルの窓の外には家もない難民が街路に食もなく餓へてゐた、しかし今日の香港からはかゝる頽廢と奢侈は完全に一掃された、白米、麵、食料油、砂糖の主要食料品は公定價格で指定配給所から支給される、金持も勤勞者も區別はない、しかも食料品の價格は少くとも南支ではどこよりも一番安い、新香港は勤勞者の町である、當クイーンス・ロードに充ち溢れてゐた所謂"千金小姐"や"交際花"といはれる美女は何處へ行つたであらうか、これに比べて著るしく增加したのは働く婦女子達である、日本人、華人の會社の事務員、工場の女工、電車の少女車掌は東亞に還つた新香港の象徴である

約束される繁榮

香港の住民は外貌ばかりでなく確かに心構へも一變してゐる、當時香港の人間は駝鳥主義だといはれた、危險がくると砂の中に頭をつッ込んで氣安めをする臆病者の意味である、その駝鳥主義を端的に表徴するものは香港の山々の腹を貫いて掘られた防空壕である、然しこの巨萬の費をもつて掘られた防空壕も最早香港では用がなくなつた、去年十月香港は初の敵機空襲を受けた、然し軍の指導下に市民は平然と立つてゐる、彼らは屋内に入らうともせずに我が荒鷲が敵機を鮮やかに撃墜する空中戰を拍手して見てゐた、香港の住民は確に一變した、そして東亞を見失つてゐた華僑はやがて東亞の民から大東亞人としての自覺を把握するに至るであらう、その日こそは香港が大東亞共榮圏の大中繼港としての新しい繁榮を全幅的に示す時であらう

一南部ルソンの住民新年の祈り一

浴衣で年始の回禮
合言葉は"勝ち拔くぞ"
ジヤワ

戰爭第二年を迎へた在ジヤワ皇軍將兵および全邦人は元旦早朝、遙く皇居に向つて遙拜を行ひ、ひとしく憶ひを故國にはせて、飽くまで勝ち拔く銃後の固い心構へに對して明日の敢鬪を誓つてゐる。

×　×　×

三千浬を距てる南海のこの島では、故國の正月の雰圍氣にふれる術もないが、各部隊では夜も日に次ぐ嚴たる警備と、次期作戰の準備のなかに悠々餘裕をみせて、年の瀬押迫つて餅つきが行はれた。何しろジヤワでは初めてのことで、杵も臼も新調揃ひ、材料は名物チーク、頑強な兵隊さんがたちまち作りあげてしまつた。米の島ジヤワには糯米の心配もいらない、ペタンコ、ペタンコと椰子の木陰で威勢のいゝ杵の音が聞えると、原住民は物珍しさうに集つてきてこれをみ守つてゐる。『あれは食べるものですか』とけげんさうな顏をしてゐる者もあつた。

豊富

ジヤワには內地にあるやうな勝のよい松はないが、葉の細く、やはらかなメルクシー松がある。又竹も到るところに豊富で、部隊および邦人住宅にはささやかな門松がたてられた、そして搗きたてのお餅は先づ戰死した勇士にささげられ、元旦を迎へて食膳についたのであるが、まことに汗ダクの雜煮であつた。

×　×　×

ジヤワは日本と違ひ、島內到る處異つた人種が住み、從つて風俗習慣もそれぐ〵異つて、一年間に正月が四回もくる。先づインドネシヤ人の正月、これは回教暦による所謂『ジヤワ正月』で昨年は十一月十一、十二の兩日であつた。回教徒の勤行である卅日間の斷食を行ひ、斷食明けに迎へる正月で一名『レバラン・プアサ』ともいはれる。この日は全島到る處で、はるかメツカに向つて野外禮拜が行はれ、またジヤワに回教徒が渡來した當時、熱心な信徒であつた王侯が祭つてあるジヤカルタや萬丹市場附近にある『ルアル・バタンの墓』や聖者の墓といはれるバンテン州の霧の世界に殘る『スルタン・ハサノジンの墓』に詣るのが正月の行事であつたが、戰後最初の新年を迎へて、皇軍の感激の中に感謝と喜びに浸つたのである。

次に在ジヤワ八十萬の華僑の正月は舊暦により本年は太陽暦の二月五日にあたつてゐる。中國の正月と殆ど同じで、新年の一週間前に祭竈といつて、かまどの神を祭る。傳説によると、このお祭はかまどの神が天に昇つてその家の主人の一年間における

善惡

を七日間に亘つて天帝に報告すると傳へられる。かまどには飴をそなへるのであるが、これは神がその飴を食べた時は、飴が口にねばりついて、天に昇つても報告することが出來ないやうにするためだといふ。然し、正月前に夜市『パッサル・マラム』を開くこと、又景氣のよい爆竹をあげて新年を迎へるなどは原住民と同樣で、夜市はジヤワ古來のものを華僑が正月の行事のなかに取り入れ、爆竹は支那から傳つたものだといはれる。その他、年越し餅を作ることや、大晦日は夜半まで元旦の支度や掃除に多忙をきはめ、元旦は掃除をしないことなど日本とよく似てゐる行事がある。又原住民と同じく必ず祖先の墓詣りをするが、親戚知己に新年の挨拶廻りをしたり、子供にお年玉を與へる習慣は原住民、華僑と共にアジヤ人共通のものである。

×　×　×

次にジヤワ三千人の印度人の正月。これはヒンヅー暦により昨年は十一月八日が元旦であつた。この日は、肉、魚類、酒類を一切やめ、野菜のみで一日食事をし、神に敬虔な祈りをささげるのであつて、人種は異つても、新年と敬虔な祈願があるのは同じである。

×　×　×

さて、我々がジヤワで迎へる正月は雨期の最中である。ジヤカルタをはじめ、全島到るところ一日一回必ず雨が降る。濕氣が漂ひ、日中どんよりと曇つてむせるやうな暑さ、夜半まで眠れぬ日が多い。夕方になつて襲來するスコールが僅かに鬱陶しい

空氣

をとり去つてくれるが、スコールには雷がつきもので、時に激しい雷鳴が轟き、スコールが止んでも夜空に稻妻が明滅し、ジヤワの子供は指して『トアン（旦那）ゴロ〵（GOROEH）』といふ。ゴロ〵によく似たマレー語だ。ジヤワの正月は猛暑と豪雨と雷に暮れる。オーバがほしいなどとは夢にも思はない。商店街は相變らずの盛況だ。最近浴衣の賣出しが目立つて來た。縮緬、模様、絞り模様など、どの街も浴衣の洪水だ。正月風景にはおよそ縁遠いが、日本人に好意をよせる商人の心構とでもいふべく、寸法もよく調和がとれてゐる。また先日ジヤカルタ將校集會所前に軍酒保の肝煎りで、本屋が開かれることになり、はるばる內地から送られてきた數千册の本が店內一ぱいに積まれ！いざ開店となつたが、待ちあぐんでゐたお客によつてたちまち賣りつくされ、僅か五時間で閉店同樣となつてしまつた。在住邦人が如何に日本の本が讀みたかつたかは別問題としても、これが一番うれしいお年玉となつたことはいふまでもない。

×　×　×

元旦は原住民、華僑、印度人にとつて何の關係もないが、元旦祭にあたり、戸毎に

日章

旗をたててこの日を祝ひ、往來する邦人は顏を知ると、知らずにかかはらず『明けましてお目出度う』『お目出度う、今年も力一ぱいやりませう』と力強い年頭のあいさつを交して行く。『さあ、二年目も勝ち拔くぞ』この覇氣こそは前線、銃後を結ぶ新年の合言葉であり、ジヤワの新年の言葉であり明日への進軍ラッパである。

【寫眞＝ジヤカルタの新春賣浴衣屋】

再建・快速調
佛の國を救つた神兵
ビルマ

タイ國を旅した人は例外なしに、その佛教の盛んなことに眼をみはる思ひをさせられるが、バンコツクから飛行機で〇時間、ビルマの大都ラングーンに着くと、それ以上に、すべてこれ佛なる哉の感を深くさせられる。第一、空から來ようが、海から訪れようが、あれがラングーンと指呼する眼に、まづ映るのは有名なシユエ・ダゴン・パゴダの金色尖頂だ。

ラングーンは森の街でもある、そしてその樹々の緑の色がまた特に深い……蒼古といつてよいやうな瞑想的なものを湛へてゐる、泰緬國境を覆つて陽の目も洩らさぬあの千古のジヤングルに通ずる沈鬱な色調だ、その森林と對蹠的に熱帶の灼光を吸つて金色燦爛たるパゴダが林立する、佛教國にふさはしい莊重な風景だ。

佛に仕ふる者は、だからこの國では絶對といつていゝ位、國民の尊敬と信頼を受ける。男子であれば、丁度日本の元服に相當するやうな儀式として、一度は、形だけでも僧院に入らなければならない。坊さんをポンヂといふ。坊主といふ字が皆無に當はまる發音なのもほほ笑ましいが、その坊さん達が佛色の衣——といつても肩から斜に身に纏つた布だが——をつけて悠然と街をゆききしてゐる。ここでは信仰がすでに立派に生活となつてゐるのだ。

……×……

パゴダの最も大きいのは、基部の直徑四十尺、高さ三百六十尺、古い寶塔の上にかぶせては造り、かぶせては造りして、それを更に金でペタペタ塗つてある、そこまで行く道の兩側には佛像、佛具を賣る店、花を賣る店、香を賣る店が雜然と並んでゐて故國のお緣日を想はせる、パゴダに參詣するには履物を脱がなければいけない。いけないといふより、もし土足で踏み込んだりしようものなら、つまみ出されてしまふだらう。

寥々と香がくゆらされてゐる中で、群をなした善男善女が、或は跪き、或は叩頭し、瞑想し、呟き、拜禮するさまざまの姿態を展開してゐる。みな、おそろしく眞劍な表情なのだ、ポンヂ殿はその中で、これまた佛像のやうに不動、半眼、瞑目、山が崩れても亂れまじき面魂で結跏趺坐、衆生の忍苦を一身に具したやうな深刻さで控へてゐる。

……×……

衆生の忍苦といつたが、ビルマの衆生はまつたくこれまで地獄の生活を強ひられてゐたのだ。碧眼紅毛の鬼どもが彼等を修羅道、餓鬼道に追ひやつて、わづかに當てにもならぬ後世安樂への祈りのみを與へてゐた、ビルマ人の信仰絶對の民族性はイギリスの乘ずるところとなつて、彼等から氣力、思考力をまさに奪ひ去らんとしてゐたのである。このまゝ推移すれば、それこそ神も佛もないといふところだつたが、神兵は遂に下つた。

戰車、飛行機、銃火を以てするこの世の修羅、英印、英支聯合軍の潰え行く手であり、救援ルート遮斷による餓鬼道の苦難は重慶軍の運命であつた、昨年一月廿一日モールメン陷ち、三月八日ラングーン破れ、五月一日マンダレ潰え、こゝにビルマの善男善女が夢にも希つた極樂が出現したのである。

……×……

吾人がラングーンと呼ぶ以前の、この地の本來の名はヤンゴン——これは戰ひの終了つまり『戰勝』を意味するものださうだ。ラングーンはまさに勝利に惠まれた。そしてこゝには戰敗も傍觀者もない。イギリスによつて施されてゐた『眼隱し』は除れた、明るい南の太陽は、萬々と彼等のゆく手を照らして遍通ない。その明るさに眩くて彼等が、どうして駈け出さないでゐられよう。協力と信頼を双の腕にして、なほひとり立ちは骨が折れるままにも、駈足の建設だつた。だから戰禍の復舊も早かつた。

街を行く自動車、自轉車、牛馬車、みな日の丸を揭げてゐる。かつて、パリーのエツフエル塔はヨーロツパの華麗な文明を象徴して、雲表に聳えた、ラングーンのパゴダが新らしい東亞文化の高さ、明るさを象つていよいよ輝きをましても、決して不似合ではない、いや、皇軍のビルマ經略ほぼ一年、ラングーンの昨今はすでにその日になつてゐるのである。

子供たちの唱歌に
偲ぶ日本の農村風景
「眠れる島」にも曉の鐘
スマトラ

「スマトラ」と聞いて、猛獸毒蛇の出場所とでもいふ風な恐ろしい土地を聯想する人がまだ內地には殘つてゐるかも知れぬが、これはまつたくもつて見當違ひである。

もつとも、かつてのオランダ人は、搾取と掠取以外に考へるところなく、自分たちだけは勝手氣儘な生活に身を挺してゐても、原住民に文化の光を與へるとか、未開な森林を開發しようといつたことには殆ど手を加へなかつたから、未だに開かれぬ島—眠れる島—未開の原始の感じは深い。

だが、それにしても、街の綺麗さ、道路の拔け工合などから受ける印象は、やはり近代化されつゝある島—といふ感じであつて、決して猛獸毒蛇の出場所といふ風な恐ろしい形容詞は通用しない。

……◇……

街のうちでも、北端にあるメダンは格別綺麗である。いや綺麗といふより清潔といつた方がいゝ。じつさいこの街は一歩足を踏み入れてみると、眼に綺麗な道路に、ココ椰子、檳榔樹、木麻黃、ネムなどの綠樹たる街路樹とか、青い芝生に赤茶色の屋根の住宅街が目に入つて『まあ、スマトラにもこんなところが』と驚くほどである。人口〇〇萬のこのメダンは、南部の石油街パレンバンや、北端キタラジヤと共に最も大きく開けた都會であるが、都市といつても近郊の

農業

をもつて成立つてゐる、それであるから、內地都市にみられるやうなせゝこましさや、かしましさがない。靜かでおつとりしてゐるそして閑靜豐かな街である。さういへば、街には未だに電車もなければバスもみられない。たゞ乘物としてはタクシーのほかに、綺麗な二人乘の輕馬車があるばかりである。アスファルトの道路の上を、現住民の馭者が輕馬の尻に長い赤い鞭を呉れて行く—これだけでその閑寂さは知られよう。それにスマトラ全島が現住民本然の地であつて、華僑などがあまり入り込んでゐないので、彼らが發散する醜汚な音がないことも何かしら清澄な感じである。

……◇……

このメダンから北へ自動車で二時間ばかりの高原地帶へ、記者はある日車を驅つた。西側をチークやゴムの林で覆はれた舗裝道路を自動車は猛烈なスピードで走る。その兩側には現住民の子供たちが並んでゐて『バンザイ、バンザイ』と叫ぶ。運轉手の兵隊さんや記者たちも、いちいちこれに

笑顔

で應答する。ところが暫らく進むと、到るところに鷄や山羊や牛などの家畜家禽類が道路のまん中に溢れ出した、それはまるで道路を自分の庭先かの樣にそのやうな態度である。自動車の警笛を鳴らしても逃げようとしない。是には流石の兵隊さんも敵はない。で、何囘となく車を止めた。だが、ひよんなはずみで一羽の鷄を轢き殺してしまつた。兵隊さんは早速車を降りて近くの現住民に鷄の所有者を訊ねて代價を拂つた。そしてまた道路を驀進して行つた。たかが鷄一羽であるとはいへ他人の財物である。それを知らぬ顏で通り過ぎることは出來ない——かうした崇高な皇軍精神が現はれてゐるのだ。かつてのオランダ治政下には、かうした風景は皆目見られなかつたところである。

兵隊さんたちには、片時も母國の麗しい自然の姿は忘れることが出來ないのであるが、それに似た

風景

があれば、さういふ想ひはますく〵募るのであらう。しかし、さうした母國を想ふ麗しい心根が自然と原住民に對する態度にも反映してゐる。彼らを心から可愛がり、温かい指導の手をさしのべてもゐる。戰へば勇猛果敢な戰士であるが、一面また文化の尖兵でもあるのである。

文化といへば、かつてメダンにいくつかあつた新聞は、皇軍の指導下に逸早く統合し、昨年十一月三日の佳節を期して、スマトラ新聞を發行し、南方での代表的新聞の一つとして原住民の文化向上に活動を開始してゐる。

……◇……

やがて高原に近づくと、內地ではないかと錯覺を起すやうな風景が展けて來た。沿道には秋蕎麥の花が咲き亂れ清々とした水田や、麥、白菜、大根などの野菜畑が續いてゐる。嚴々とした水田に

薄靄

も漲がつてゐる、家はとみるとこれまた內地そつくりである。しかも彼方には雪こそないが富士山のやうな山が浮かんでゐるではないか、まつたく母國と寸分變らぬ風景である。

目的地で降りると、原住民の子供たちは、記者らが嬉しい小學校で教はつた『富士は雲の上に出し』の富士山の歌を歌つてゐる。そして、住民の家には、日本の田舍に見られるやうな母家があつて、その中には圍爐裏が切つてある。米搗場もあれば、水車も廻つてゐる。兵隊さん達はうつとりと故郷を回想するのである。

街路に颯爽たり
大和撫子の群
昭南

眠れる獅子ブラカンマチが乳を溶かし込んだやうな淡いコバルト色の空にくつきりと稜線を描くころ、高い椰子の梢あたりからしゞまを破るわが荒鷲の力強い爆音も響いて來る——南方共榮圏の表玄關、新生昭南が一夜の眠りから醒めて一日の躍動をはじめたのだ。

たゞ、赤道のお膝元だけに、朝の冷氣はほんのひとゝきしか味はへない。夜が明けるとそれを待ち構へてゐたかのやうに烈日がギラギラ輝きはじめ、アスファルトはその照り返しで瞬く間に灼けつくやうな暑さに變つて來るのだ。

しかし、その上を闊歩する大和撫子の何と潑剌と頼母しく美しいことよ、パナマ帽に眞白いワンピース、彼女たちは跣足の原住民たちに混つて職場へ急ぐのである、やがてそちこちのオフイスからは豆を煎るやうなタイプの響音も聞えて來よう。

……◇……

眼を灣の方へ移すと一面油を流したやうな海の面に灰色をしたいくつもの船がどつしり浮んでゐる、內地へ一艘も早く重要物資を運ばうと手ぐすね引いてゐる日本の船だ、船といへば、開戰以來何處へともなく姿を消してゐた赤いジヤンクの帆船も最近とくに目覺しい、鶯の羽を斜に立てかけたやうな帆が無數に浮かんでゐるさまは新生昭南港の點景物である。

灣に沿ふバンドには、かつては東亞侵略の英米數人客で賑はつてゐたラフルズ・ホテル—今『昭南旅館』のその名も新しい日本名の舘に塗りかへられて、共榮圏建設の旅をする人たちの憩ひの場所となつてゐる。そしてこのホテルの大ホールでは戰前、彼奴らが臆面もなくジヤズソングで躍り狂つてゐた同じステージで、現地人のブラスバンドが『愛國行進曲』『海ゆかば』などを勇壯活潑に奏でてゐるのだ、さういへば旅館の近く、かつてのクリケット・クラブも『昭南クラブ』に變つた、戰前、クリケット好きのイギリス人は、麗しい芝生の上で、この遊びに浮身をやつしてゐたものだが、いまでは昭南在住日本人の眞面目な集會所となり、芝生の上では時折原住民たちとの運動試合も展開される。

……◇……

變つた建物の名前をついでに擧げれば、映畫劇場と博物館がある。昨年の四月廿九日天長節の佳き日を期して、わが戰勝部隊の市中行進が行はれたが、その時、市內の映畫劇場も昭南新生以來はじめて公開した、カセイ劇場は『大東亞劇場』、パレス・ニートンセンは『大和劇場』の名前で、そしていままでは日本のニュース映畫や、內地を偲ばせる劇映畫が續々上映されて兵隊さんはもとより原住民たちを喜ばせてゐる。

もとのシンガポール博物館は、これまた『昭南博物館』の名で公開されてゐる、この博物館はクアラ・ルンプール博物館の昆虫、タイピン博物館の人類學とゝもに南方島嶼の研究に力瘤を入れてゐたものである、いまは勉強家の兵隊さんたちの良き研究室となつてゐる、やはり昨年の四月廿九日に開館したが、以來入館者は約〇萬人その殆どを日本の兵隊さんが占めてゐるといふ。

……◇……

この博物館へはいつて思はず眼を輝らさせるのは、東亞侵略の巨魁英人スタンフオード・ド・ラフルズの像が立てかけてあることだ、痛快な日本文の註釋も付てゐる。本像は西暦一八一七年六月ビクトリヤ女皇在位五十年祝典にあたり、シンガポールの建設者としての彼の功績を記念して現在の市政會議場中央に建設せられ、その後一九一九年二月、英國のシンガポール占據百年記念祭に際し、アンダーソン橋正面廣場に移されたものを、こゝに新生昭南市の建設に際し昭和十七年九月本博物館に移轉させる、つまり、ラフルズの像は博物館の陳列品的標本に化したわけである。

新春雜詠
吉井勇

春來れどみいくさ思へば胸たぎつ老のかひなもいまか鳴るがに

年立てば草莽にある微臣吾も先づ祈るなりいくさの勝を

心ふと嚴しきものに觸れしかば春は來れどもひたにもの思ふ

今年より新防人となることをよろこぶといふ文も來しかな

年祝ぐとともに新たにつはものに召さるる友の身の上も祝ぐ

峽餘に住むわが畫友の老の髮いよよ白きを加へつらむか

高麗の壺うつくしと見しこともわが或る春のおもひでにして

乳の良く出る薬
ラクトミン
醫學博士 金原嘉壽
醫學博士 金鍋煥
兩先生推奬
一、本劑は乳房の發育が惡い爲めお乳の出ない方
一、疾病に因りお乳の出ない方
一、糖尿病お乳の出ない方
一、老齢に因り乳腺が萎縮をしてお乳の出ない方
一、姙娠中苦しき惡阻（ツワリ）の爲め困る方
一、姙娠中消化不良の爲め困る方
一、産後の疲勞を防止し且つ母乳が丈夫になる
一、母體を保護し胎兒の發育を健全にして早産、流産、難産する事なくお丈夫な赤ちやんを產む
★各地有名藥店に有り
製造元 國際新藥研究所
藥價 十円 六円 三円

映
原作 白井喬二
朝鮮映配 提供
再び飛龍の劍を惡しき一起を快ちく爽し閃す驚阪東妻三郎
富士に立つ影
阪東妻三郎　橘公子　尾上菊太郎
絶讚上映中
京城寶塚劇場
京城劇場

こゝも戰場だ
昭和商事合資會社
朝鮮鑄造株式會社
朝鮮釘鋲株式會社

戰時下正月は是非京日文化劇場へ
劇團高協公演
春は上海に 三幕五場
魔の都市上海はスパイの巣窟だ！折しも上海戰となり市街戰の眞唯中にスパイ殲滅戰の火蓋は切られた！
これぞ戰時下國民必見の間諜劇！
原作 金兌鎮　演出 全昌根　裝置 林明善
正月五日まで
晝夜二回 ヒル十二時半 ヨル六時半 開演
鍾路四丁目（舊第一劇場改メ）
京日鍾路文化劇場
京日ニュース劇場
文化映畫
昭和通三中井
二日まで・九時半より
◇漫畫祭◇
★アサヒホームグラフ
★漫畫・子寶行進曲
★文化・馬術を說く
★漫畫・マー坊宣撫班
サーカスの卷
匪賊退治の卷
★日本ニュース
三日より七日まで（五日は午前十時開場）
★アサヒホームグラフ
★漫畫文化・とんぼ
★漫畫・義經物語
★漫畫ハーゲンベック大サーカス團（2卷）
樂屋風景
★日本ニュース

崇高なる任務遂行へ
今ぞ眞の日本人たれ

京城帝國大學教授 戸澤鐵彦

半島青年に望む

戸澤鐵彦氏

新しき年を迎へて今更ながら歳月の流るるが如き早さを想ひ、國家内外の變遷の著るしさをしみじみと感ずるのである。顧みれば、この半島に帝國大學の創立されると共に私も京城に來たのであるが、それは既に十有七年の昔となつてしまつた。

當時東亞に對する英米の壓迫は愈よその度を強めてきたが、米英の勢力の下に世界は表面上比較的のどかに見えてゐた。やがて貪婪飽まりなき英國に對して一時支那に排英運動が起り、英國はこれに對して威嚇を試みたが、老獪な英國は早くもその効少きを悟つて、自國に對する支那の排斥運動を巧みに我國に轉嫁せしめ、東亞の眞の守護者たる我國を牽制せしめて自國の權益の擴大強化を計るに至つた。

支那分割の競爭において歐洲諸強國に立後れた米國は、支那の門戸開放を唱へ、機會均等を叫び、次第に競爭國を牽制して着々經濟上支那を侵略して行つた。

◇

支那はこの恐るべき貪慾者英米を愚かにも味方と頼んで我國の正當な經濟上の利益を排斥するにつとめ、支那政府はその國内統一の有效な方便として排日や抗日を重要視した。かくの如くしてやがて滿洲事變が勃發し、次いで支那事變が起つた。

さうして、支那の新政權を傀儡として戰鬪以外のあらゆる敵對行爲によつて我國を苦しめてゐた者は亞細亞の大敵英米と亞細亞の守護たる我國との間に遂に公然戰爭が開かれるに至つた。獨伊等もまた英米等と戰ひつゝある。第二次世界大戰は今や酣である。

概觀すれば、近世國家は古代や中世の國家に比してかなり廣い領域を保有するものといへるであらう。しかもなほ世界には隨分多くの國家が並び存して居た。歐洲についていふも、今次の第二歐洲大戰勃發の頃までは、なほ幾多の弱小國家が、よしや一定の強國の御機嫌をとりその庇護の下に存在を續けるにしても、とにかく一應獨立國として存在を保つてゐたのである。

◇

然るにこの第二次歐洲大戰の勃發以來我々は弱小國家の弱さをまざまざと見せつけられた。自力で立派に外敵の侵略を防ぐだけの能力もない弱小民族が一時幸にして國家をなすとも、一度外敵の侵入に會へば忽ちにしてその國土は敵に蹂躙され、或は奴隷に等しき地位に置かれて塗炭の苦に泣かされる。この災厄を免れんとすれば唯々敵に無條件降伏する外に道はない。弱小民族が獨立の美名にあこがれて自己の能力を省みずに國家をなすことは諸民族の道上からも否定すべきことなのである。今後弱小民族が獨立の國家を形成する可能性は先づないといつてよからう。

假令弱小民族が何等かの事由で國家を形成することがあつても、それは一定の廣域の國家共榮圈内の一つの國家としてその圈の指導國家の統制を多分に受けることとなる。將來世界は僅少數の、政治上並に經濟上の共存圈に分れ、各共存圈に於ては一つの強大な國家が指導國家となり、その指導の下に幾つかの國家が協調していはば一種の聯邦ともいふべきものを形成して殆ど一つの國家とも見るべき共同體となり、この廣い範圍に於て所謂廣域經濟が行はれ、かくてはじめてこの共同體は眞に自足的な、又、外敵に對する防衞力の充分なものとなることが出來るのである。

◇

それより先の未來を豫想することは甚だ至難の業であるが、若し豫想を許すならばつひにこの種の極少數の廣大な共同體が夫々強大な國家となりきり、かくて世界には極めて少數の強大強力な國家が並び存するに至り、結局は有色人國家と白色人國家とが世界に両立することになるのではなからうか。

人種闘爭等の點から考へて見ると、有色人種と白色人種とは必ずしも闘爭を避けねばならないものではないが、一方が他方を支配するといふことは永續せず、結局、世界は有色人國家と白色人國家とに兩分されて、しかもこの二つの國家が聰明にも調和を保つて行くことによつてこの世界に合理的な平和が齎されることになるであらう。

以上の豫想がどの程度まで適中するか疑はしいが、とにかく今後は弱小民族が獨立國家を形成する可能性は先づないと見ねばならない。廣域經濟が營まれ、廣域政治が行はれ、世界には完全な獨立國家の數は極めて少くなると共にその獨立國家の統制の範圍は著るしく廣いものとなるう。

皇國は大東亞共榮圈といふ廣大な共存圈における指導國家として圈内の諸國家を誘掖し指導して大東亞諸民族の共存共榮を計らねばならず、大東亞の守護者としての皇國の使命は極めて重大なのである。この半島は指導國家の一部として大東亞共榮圈の確立といふ事業に應分の貢獻をしなければならない。半島人の原動力たる半島青年諸君の任務は頗る重大である。近く徴兵制度も半島に實施されることに確定し、義務教育制度も採用されることとなつた。

さうして半島青年諸君の眞摯な努力によつて、この半島人の社會がもう少し高い水準に達すれば、ある程度まで地方色を保ちながら内地と同じ地位に置かれる約束が實現される日は案外早く來るであらう。半島人は大東亞共榮圈の指導國家たる皇國の構成員として大東亞諸民族の共存共榮のために充分に能力を發揮することが出來るのであつて、フィリッピン人やビルマ人等よりも遙に卓越な地位にある。半島の青年諸君は皇國のために、大東亞共榮圈のために、各々その崇高な任務を遂行しなければならない。

◇

私は久しい間、人知れず内鮮問題について心を勞してゐたが、今こそ確信を以つて諸君にいふことが出來る。『日本人になりきつて日本のために最善を盡すことによつてこそ眞に朝鮮に盡し大東亞各民族を米英の桎梏から救出してその向上繁榮を計るといふ崇高な目的の達成に貢獻することが出來るのだ』と。

この戰爭の目的を達成し大東亞共榮圈を確立するには我々は幾多の困難に打克たねばならない。然しながら、のどやかに樂々と遂げられる大事業などといふものでない筈だ。御互に愈よ奮勵努力しなければならない。

日本なかりせばこの東亞も既に悉く歐米諸國の屬領となり東亞の民族すべてが歐米人の奴隸になつてゐたであらう。米英が跳梁に日本を苦しめたのも、東亞の守護者を滅して東亞を悉く植民地にしようと企んでゐたからである。我々は飽迄も米英に對して大東亞諸民族を擁護しなければならない。

◇

半島が内地の諸地方と平等の地位に立つことが約束され、その實現の日も案外早いと思ふのであるが、それには半島人殊にその推進力たる半島人青年の眞摯な努力によつてこの半島が眞に日本の一部として遇されるだけの文化水準に達しなければならない。もとよりこの朝鮮も、日本の一部としての融合同化と調和される限度においては、その特殊性を保持してよいのみならず、美しき特殊性を愈よ發展させてよい。よき地方色の價値は決して阻止すべきものではない。

然しながら公正な立場から見て朝鮮人社會には一日も早く改むべき多くの弊風がなほ殘つてゐる。茲にその弊害を一々指摘することは差控へたい。半島人の目覺めた青年たちには充分わかつてゐる筈である。大東亞共榮圈の指導國家たる皇國の一部分としての職分と兩立し難い風習や思潮を速に一掃し朝鮮人社會を内地の社會と同一水準の社會にしなければこの半島が内地の諸地方と全く平等の地位に置かれ半島人が内地人と全く平等の待遇を受けることは出來ない。

◇

半島人社會の向上のためには我々も出來るだけ努力するが、半島人殊にその推進力たる半島人青年は眞剣に努力しなければならない。爲政者側や内地人の有志の努力と併行して朝鮮人の自發的な改善運動として朝鮮人社會の改革が着々と實現されて行かねばならない。もとより、[illegible]平等を要求すべきものではなく、只管將來に於て得られるであらう。

◇

大東亞各民族の危急存亡の秋に當り、半島人殊にその青年の一層の奮勵努力することを切望する。戰爭は極めて有利に進められてゐる。堅忍不拔の努力によつて我々はやがて米英の抗戰力を喪失せしめることが出來るのである。

筆者略歴 戸澤鐵彦氏は大正九年東大政治學科を卒業し一時三井銀行に勤務したがのち大學院で政治學を專攻、明大、法大の講師、教授を經て大正十五年城大創立と同時に法文學部助教授となり昭和三年教授、現在政治學、政治史講座を擔當して居る

増強國力

元旦試筆 朝鮮軍司令官 板垣征四郎

板垣征四郎書

新年勅題 農村新年 本社寫眞部撮影

榮ある銃後決戰へ

生産力の増強と戰時國民生活に徹せよ

總力聯盟總長 波田重一

波田重一氏

大御稜威として大東亞の全域にあまねく『御民われ』の感激ひとしほ深めつつ茲に全聯盟員諸士と共に、更に偉大なる新年を迎へて心魂自ら新なるものがあります

大東亞戰爭こそは米英の利己的搾取的世界政策に對する皇道宣布正義擁護の熾烈なる主張であり、從つて日本は素より大東亞の自存自衞、死活興亡の戰ひであります

しかもこの間、寸毫の讓歩妥協をも許しません、眞にわが國運を賭しての總力戰でありまして、ここに銃後における戰場精神が強く要望せられ、戰力として生産力増强と逞しき戰時國民生活の實踐が不可缺の二大眼目として要求せらるるのも、實にこの歷史的大血戰を勝ち拔かんがためであります

しかるを萬一にもなほ本大戰の眞底の意義に透徹せず、皇國に生を享けたる臣民の使命を悟らず、利己求安の日を送るものありとするならば、それは皇國臣民として許さるべきものでありません

鏖敵米英を粉碎し去るには實に第一線皇軍將兵に勝るとも劣らざる旺盛なる銃後國民の戰鬪精神が必要であつて、殊に今次聖戰の將來を決定する大決戰の年が今明年にあることを考へるならば、かけなくも大御心を率ゐたる我ら皇國臣民たるもの瞬時といへども晏如たり得ないのであります

今や朝鮮は物心の凡てをあげて聖戰完遂にその總力を結び集め、特に光輝ある徴兵制施行に義務教育制の施行を前にして神の子日本人たるの戰鬪態勢を一層新にすると同時に、さらに名實ともに大東亞の中核指導者としての自己錬成に邁つて一大行進を開始しつゝありますが、朝鮮の眞價を問はるべきこの歴史的重大時機に際會し、なほ人心の一部においてみられる如く道義を蔑り、米英的利己、利潤の追求に專念し、自由主義的生活を清算し得ざるものは勿論、修錬の足らざる數獨不滿を撒布し、戰局の認識淺く、皇民たるの衿持に缺け、常に傍觀的にして進取奉公の氣魄なく、戰に戰爭の同伴者的態度を改めざるものに對してはこの戰爭として反省を求めねばなりません

昭和十八年こそは大東亞戰の將來を決する決戰の年であると共に半島にとつても歴史上曾てなき一大轉機の年であることを確信し、我らは新なる構想に基づく、より内面的なる總力運動の新展開を期して居ります

茲に敬愛する全聯盟員諸君と共に偉大なる大東亞の新春を迎へて赤心聖壽の萬歳を寿ぎ奉ると共に英靈に額き、遙に第一線將兵の勞苦を偲びつゝ、我ら二千四百萬聯盟員の一丸となつて銃後の御奉公に邁進するの誓ひを新にする次第であります

大義戰の完遂へ

◇…蒙古政府主席德王

曠古未曾有の赫々たる勝利の下大東亞戰爭第二年の銘記すべき元旦を迎ふるに際し茲に年頭の決意を披瀝する

「十億の東亞が米英の羈絆搾取の下に植民地化されてより數世紀に亘る怨恨の爆發は一昨年十二月八日友邦日本の正義熾烈なる蹶起によつて東亞が眞に東亞人の大東亞に還る聖戰の火蓋を切つた、爾來日時を閲すること一年有餘數世紀におよぶ東亞の屈辱史は天の命ずるところ、雙絶無比古今獨步なる皇軍將兵の無我至誠たる勇戰敢闘によつて東亞における米英の搾取汚點は悉く拂拭せられその殘滓は一掃せられつゝある、その理念において友邦日本の蹶起は千古を通じて惇らざる勝利鞏正の道義戰であり萬邦をして各々その所を得しむる鞏固不動にして純乎たる基礎を十全せんとする大義戰である、わが蒙古政府は盛運以來茲に第七年の光榮ある元旦を迎へ盟邦の基礎今や磐石の重きを加ふ、蒙古の支那事變解決に邁進し、今次大東亞戰爭勃發を契機とし一切の施政方策はひたすら大義戰の完遂を目指して不退轉の決意の下政治經濟、文化の施策を綜合歸一し蒙疆を擧げて曠古の大戰完遂に協力奉仕し來つた

蒙疆の下に迎へて茲に洋々たる成吉思汗紀元七三八年わが蒙古六百萬蒼生はいよいよ挺身敢闘し友邦日本に隨ふと共に共榮圈各國と緊密心協力同甘共苦世紀の大使命遂行に邁進の盟を新らし如何なる困難に遭遇するとも大東亞十億の總意による明朗にして至誠なる共榮圈確立のために勤勞奉公なる眞に挺身し以て盟主大日本 天皇の大御心を以て心とする八紘爲宇の名人的建設理想實現のために大東亞維新を斷行せねばならぬ

生をこの世に享けたる感激を純血に迸しらせ曠古に比類なき聖戰を更に永劫への確固たる歷史に顯現すべき大東亞戰爭第二年の劃紀すべき元旦に當り所懐を述べ不撓の決意を新にする次第である

戰鬪するアメリカ

安藤直明

弱點は國民の精神力
物質力には油斷禁物

アメリカはわが海軍によつて眞珠灣を奇襲されるまでは、全然日本を問題にせず『日本は支那事變で疲れ切つてゐる、少々日本が強硬なことをいつてきてもアメリカで毅然たる態度を示せば必ず叩頭して來る』と、政府も國民も信じきつてゐたやうに私は思ふ。

こゝにアメリカの非常な誤算があつた、それだから、ハワイの敗戰ぶりがワシントン

議會 での問題となり、檢事族のロバート一行が調査委員となり一昨年の十二月中下旬約三週間に亘つてハワイ方面を視察したその報告の中にも明記されてゐるやうに

『太平洋艦隊司令長官キムメルはスターク作戰部長から、またハワイ陸軍司令官ショートは參謀總長マーシャルからそれぐ日米間の空氣險惡を指示され、時に遺漏なきやう警告を受けたるに拘らず特に備へるところがなかつた』

となし、さらに

『當日(アメリカ側十二月七日)午前六時三十分海軍驅逐艦一隻タレス號が日本潛航艇一隻を發見し、また午前六時四十五分哨戒機および驅逐艦ワード號はこれに攻撃を加へたこと、また午前七時二分飛行機探知機手は海上百三十浬の沖合に多數の日本飛行機群の來襲を知り七時二〇分これを上官に報告せること、更にまた當日眞珠灣の入口の網は午前四時五十八分掃海艇二隻を通過させるため開かれ、そのまゝ八時四十分まで閉鎖されなかつた』

ことを指摘し、アメリカ側に重大な過失のあつたことを卒直に報告してゐる。これには、最初政府の首腦によつて『日本は怪しからぬ一方に平和交渉をやりながらハワイを騙し討ちをした、武士道を誇りながら、武士道も何もない國だ』と誹謗、われく在米邦人にも峻烈な眼を注ぎ

苛酷 な態度を示して來たこと卽ち眞珠灣の敗戰にはアメリカ人も憤然たるものがあつた樣で、當初は政府の『リメムバー、パール、ハーバー』(眞珠灣の恥を忘れるな)のスローガンに煽られて、新聞にも雜誌にも、廣播にもそこ此處に盛んに宣傳されてゐたやうであるが、このロバートの報告が發表されてから急に下火になつたやうに感じられた。

安藤直明氏

アメリカは昨年三月レンドリース・ビル(對英援助法)を議會で通過させ、四月たゞちに七十億弗の豫算を組み、さらに五十九億弗を追加し、本年六月われわれが交換船に乘込んで紐育を離れた當時までには、この援助豫算總額は四百二十億弗に達してゐるのである、從つてアメリカが實際に宣戰をし大戰に入つたのは昨年十二月八日であるが昨年四月には既に兵隊こそ動かしてはゐなかつたが、事實上國内の物資を動員し、しかもそれが日三十億に達してゐたのであるから、謂ば物の有るアメリカと雖も一般經濟に影響するところは決して少くなかつたのである。殊に拔目のないユダヤ財閥の暗躍があつて、物價は日を逐うて鰻上りに上昇してゐたことは色々な事實が證明してゐる。私は昨年三月日米の空氣がかなり險惡な状況の時、紐育に赴任したのであるが、その當時と開戰當時においてさへ、すでに五割の物價騰貴は明かになつてゐた、從つて政府は一生懸命物價統制に乘出し

物資 の蒐集に努めたのであるがなかく實績が擧がらない。漸く昨年三月物價統制法を決定したが、日本などと違つて勞働賃銀と、重要農作物の價格とは除外するとしたのである。勞働賃銀の除外の理由として、一般物價の最高價格を決定すれば勞働者の生活費は安定するのであるから賃銀も自分一定の點に停止することが出來る、從つて最高賃銀決定する要がないといふ説明であるが、それでよいのならば、日本だつて、獨逸だつて英吉利でも同樣にゆくはずである。

要するに國民を欺瞞する詭辯に外ならないのであつて、原因は、ルーズベルトの勞働組合および西部地方下地主、大農經營者との選擧取引の[illegible]に過ぎない。その後農產物價も統制したとの説もあつたが、如何なものであらう。長らく物價問題で苦しんでゐた物價局長官レオン・ヘンダーソンが辭任したといふ新聞記事を最近讀んだことがあるが相變らずむづかしいことになつてゐるのではないかと私は想像してゐる。

昨年アメリカ政府は一九四二年度において船舶八百萬噸を進水せしめるといつて世界の眼を見張らせた。今アメリカで造成してゐるのは標準型(リバティー・シップ)一萬六百噸のもので、全國の工場で部分品を作り、これを一ケ所に集めて組立てるのであつて最初は一隻七十五日を目標にしてゐたが、段々日數を短縮させ、われくがニューヨークを離れる頃迄には四十九日のレコードを樹てゝをり、最近は更に短縮されてゐるやうである。

前述の通り明年度八百萬噸を竣成せしめたとすれば、一日に二隻強を進水せしめなければならず、昨年上期の實績が惡かつたから、專門家も到底八百萬噸は實現不能、おそらく五百萬噸乃至六百萬噸の間であらうと觀察してゐるやうであるが、造船能力が着々進んでゐることは疑ひない。しかし船はあくまで機械である。これに乘込む船員の問題はどうか、われくが開戰直後米官憲の手に捕へられ、紐育港外のエリス・アイランドに

收容 されてゐた時、同じ收容所内に數百名の支那人がわれわれと別棟ではあるが收容されてゐるのをみて不思議に思つてゐたが、よく聞いてみると、この連中はみな、中立國や或は英米側の船舶に乘込んでゐたものが紐育で上陸させられ、或は上陸した時、米國の船に乘るよう非常な好條件をもつて誘はれ、これを斷つたもの丶集りであることが判つた。流石の支那人も大西洋の航行危險を知り命が惜しかつたものであらう。支那人ばかりでなくギリシヤ人、スウエーデン人、デンマーク人等の船員も相當ゐたのである。

アメリカ人は陸上の職業が豐富で收入が多いから、危險な船員にならないのは勿論である。アメリカが如何に造船能力を宣傳しても船員の統制、養成はなかく容易でないことは明かで、彼等がいふほど恐ろしいものでもないと私は考へる。

あれだけ砂糖を嘗める國民が、また[illegible]

家庭と共に、家庭生活にはどうしても切離して考へることが出來ないほど普及發達した自動車のタイヤ、ガソリンの非常な制限を受けたこともアメリカ人としては確に大きな打擊であるに相違ない。アメリカは戰前一年間に消費するゴム約六十萬噸の中九十二%は輸入品に仰ぎ、しかもその大部分は今回わが占領地となつたマライ、南洋方面から買つてゐたのであるが開戰後全く杜絶えた。合成ゴムで間に合はすとか、ブラジルでゴム樹を植るとかいつてゐるが、ブラジルは南洋方面ゴムの本元でありながら(南洋ゴムはブラジル種を移植したものといはれてゐる)本家が廢れて分家が榮えたぐひでブラジルでゴム樹を相當量生育させるためには

今後 五、六年を要するといはれ しかも勞力が足りない。合成ゴムは米國專門家が今後一年半經ては十萬噸位な生産出來るといつた位で、到底需要の間には合はない。

日本側の消息通はアメリカ國内のゴムのストックは今後一箇年乃至二箇年は維持することが出來るであらうといはれてゐるが、それから先が問題である。今年の五月下旬ルーズベルトは國民に對し『ゴムは十分手當がしてあつて、現在國民が使用してゐる自動車のタイヤが消耗する頃には、代替品は支障なく供給することが出來る』と聲明したことがあるが、その翌日には、街頭に戰前以上に自動車が氾濫して交通巡査が轉手古舞をした記事が幾つかの新聞に載つてをり且つ或る新聞の社説には『大統領たるものは、今少し言動を愼んで貰はなくては困る、戰爭中の國民の緊張を緩ませるではないか』といふやうな詰問的なことを掲げてゐるのを讀んだ記憶もある。

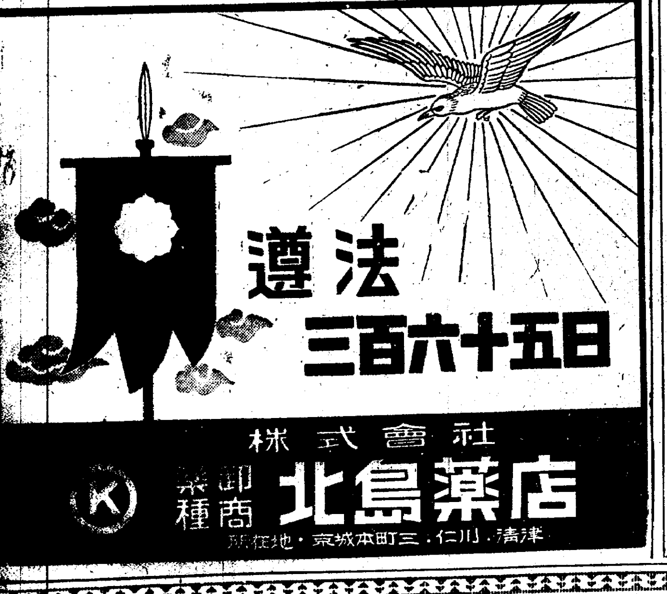
しかし其後僅々半月位でルーズベルトは『ゴムは國内需要量の九割強を輸入品に仰いでゐた關係上非常な危險状態にある。政府は緊急にその補充を圖る必要があるから、國民はそのストックを至急指定の場所に提出して政府の買上げに應ぜられたし』といつて國民を唖然たらしめたものである。

資源豐富を誇り、生産力の強大を吹聽するアメリカにも物資關係で既にいろいろな悩みはある。國民の人種的複雜性、戰時體制には最も不向きな國民の個人主義、生活水準低下に對する

國民 の忍耐力、物資萬能に慣れた國民の精神力が果して戰爭の上にどれだけ作用し得るや、などかれこれ考へ合はすれば私は精神的な方面においてアメリカの強さに多大の疑問を持つ、その物質力は絶對油斷はならぬ、しかもその後政府は一生懸命國民の對日敵愾心の宣揚に努め國民の奮起を促してゐるとのことであるから大いに警戒を要する。

然し結局私はわが國の必勝不敗を深く信じて疑はないのである。唯こゝにお互ひに一層の努力しなければならぬのは、所謂國民の完全な總力戰體制の確立であつて一億一心が完成することはとりもなほさず戰爭の終結を早からしむることであり、夫れが緩めばそれだけ戰爭は長期化するものと考へなければならぬのであらう。

筆者略歴 現朝鮮銀行厚生課長、岡山縣出身、大正十年長崎高商卒業と同時に鮮銀に入り、天津北京支店の副支配人を經て大東亞戰勃發當時はニューヨーク支店長として同地に在り第一回交換船で歸朝、本年十一月現職に就任した



株式會社
藥種商 卸 北島藥店
所在地・京城本町三・仁川・清津

頑張れ!敵も必死だ
纖維會館
京城府明治町一丁目五九

水力機械
風力機械
工作機械
荏原製作所
京城出張所
京城・長谷川町

今日も決戰明日も決戰
株式會社 和信
和信商事株式會社

賀正
正月元旦ヨリ五日間
晝夜二回(晝一時・夜六時開場)
府民館

浪花館 三十一日より上映 ニュース 文化映畫 中華映畫 木蘭從軍

大陸劇場 朝鮮樂劇團 新春公演 第一部 第二部 燕のくに 第三部 華やかな舞臺 オーケー樂團

京劇 卅一日より 日本ニュース 文化映畫 富士に立つ影 日曜祭日ハ早朝興行

城寶 十二月三十日―一月二日 ニュース 生きた慰問袋 富士に立つ影 一月一日より七日まで午前九時開場

和信映畫館 卅一日より一月八日まで(元旦より四日迄休演) 日本ニュース(第百卅二號) 挺子と地球 東寶映畫 九段の母 花井蘭子 日曜祭日は午前十時半より上映

明治座 三十日より時間表 文化映畫 ニュース 幽靈大いに怒る 一月二日より七日まで午前八時五十分開場

城南劇場 三十日ヨリ正月二日マデ 日本ニュース 文化映畫 嫁ぐ日まで 原節子

三十日ヨリ正月二日マデ 日本ニュース 文化映畫 エノケンの 譽れの土俵入

新たな決意に燃えて
あさ勝抜かう！決戦第三年

目出たる神武紀元二千六百三年の朝は明けた、磐石不壊の一大決戦態勢を堅持しつゝ目出たる朝を迎へたのである「續決戦の戦場」の一大篇を深く心肝に銘じ襟を正してこの朝の屠蘇を祝へば忝けなくも、いくばくかの黒豆、數の子、するめが配されてゐる、盃を高々と捧げて瞑目すればおゝ御民われの感激と感謝とが沸々として胸内に溢れて來るではないか、何は無くともこの一杯の盃のその底に落ち留れる有難さ、嬉しさ忝けなさよ――、よくぞ日本人に生れける、この年こそは決戦に次ぐ決戦を萬死を賭して勝ち抜くのだ、安逸、利己心、懈怠を排せ、一杯の屠蘇はかく教へる、千萬人と雖もわれ征かんとの不惜身命の大決定心は五臓に銘る、かくて今年もまた偉いなる歴史を創るのだ、生活即ち戦争だ、生活を緊めよ、貯蓄するのだ、増産だ、そして一機でも多くを第一線に送るのだ、世界の公敵米英撃滅の止めをこの年にこそ刺さしめよう、輝かしきまでの朝一杯の屠蘇を排してわれ等はかく誓ひ、かく念じわれ等の生活の總てを擧げて此戦争を戦ひ抜き而して勝ちぬくのだ

四日、御用始式

總督府では四日午前十時から第一會議室で御用始式を擧行、同十一時から第三會議室で新春初の局長會議を開催、田總督より訓示があり一般に國民本義の邁進を基調として一大飛躍を期する總督の訓示が行はれる豫定である

暁闇祈る三千九百回
神宮大前に結ぶ内鮮の佳話

月影も清らかに暁き南山の朝霧の中、昭和十八年元旦の明け初むる時、朝鮮神宮の大前には〝日本必勝〟の信念も固く烈々たる愛國の至誠を籠めて皇軍の武運長久を祈願せんと詣でする民草は月の光に輝く白き石のきざはしを踏んで厳しく響く、それは皇紀二千六百三年の大いなる新しき朝の國民の列なのだ、戦争を勝ち抜く國民の力こもる足並みなのだ、赤誠こゝに集つて神苑に溢ふ、この聖なる元旦参拝者の列のなかに三千九百十六回目の玉砂利を踏む内鮮両婦人――二人は御手洗所で口漱ぎ心静めた後大前に進み、拍手もしなやかに頭を垂れた、この内鮮両婦人は龍山漢江通四の二二八の一一金松蘭さんと同二二八の一〇吉市光枝さんで、内鮮の心と心とが神前に結ばれるまでには奇しき人生が綴られてゐる

今を去る十三年前、昭和六年満洲事變が勃發したとき、金松蘭さんが當時通つてゐた龍山大和普通學校の宮本先生は出征された、金さんの童心は嚴ひに征く勇士の姿に愛國の至情で一杯にされた、金さんはその日から毎朝日参をはじめ、我が恩師の武運を祈つてきたのである、その後幾歳月を經て現住所に嫁入した姑、今度は朝鮮神宮の日参をはじめたのである

一方吉市光枝さんは良人の第二次の勇士、満洲の征戦に従つてからこの方皇軍の武運長久を神前に祈願してきたのであるが、偶然にも日支事變の直前、この内鮮両婦人はこの神域に顔をあはせたのである

それがまた一方町に隣組制がしかれてみると同じ隣組同士といふ間であつても切れない同じ愛國班員といふ縁は更に二人の睦びは更へやうもなかつた、神の力は内鮮両婦人の誠なる心と心とを固く結びつけ、二人は風の日も雨の日も一日も缺かさず戦勝を祈りて日参を續けて來つたが、大東亞戦争勃發して大詔渙發せらるるや、二人の感激はいやが上にも昂つて、内鮮両家の睦みは決戦下いよいよ深まつて行く【寫眞＝金さん、吉市両婦人】

打込む太刀風鋭し
烈々！豆戦士の氣魄

〝竹刀一本〟打込む太刀風、眞劍氣魄の烈しさに少國民の勝ち抜く構へが寒風裂いて天下に轟然として響き渡る、振り上げる竹刀、あッ合ち打ちだ…勝を討たして生を断つ、ソロモンの海戦、わが黒獅子の勇敢は決戦日本の礎だ、戦ひ勝て昭和十八年―少年の意氣すでにこゝにあり【寫眞＝錬成する京城之内道場の豆戦士】

陣頭指揮
在城海軍武官　松本大佐

日々決戦の覺悟　1

掘り出せ、生み出せ、増産だ、街にも村にも勝ち抜くための総力が土を蹴つて盛上る、一億の結集、一人々々が働く中に雄々しく重役たちも起ち上りその陣頭指揮の下、逞しい新しい戦闘生活は築かれて行く、ではその指導者へ『陣頭指揮』の構へはどうか、新春の陣頭として訊ねてみた

陣頭指揮も結構だがそれに附いて行くを要すとが大切だと私は常に考へてゐる、現今の陣頭指揮なるものの多くが形式だけで行はれてゐるとはいけない、海軍の艦隊戦隊のやうに上下一致でやらなければ意味をなさぬ、わが艦隊は戦闘における最後の精鋭を倒すの覺悟があるやうに思へるのが第一だ

いづれの海戦に臨戦しても敵を侮らず、周到なる研究を重ねてこれに當るもので、しかも臨戦間において挟い間の砲戦を一瞬に出し盡すのだ、艦隊の指揮を執る旗艦には司令官が坐乗して眞つ先に敵艦に向つて突進する

敵艦の集中する中を旗艦は全軍指揮のために文字通り陣頭に立つのだ、しかも從ふ乗員はいづれも粒選りの精神的にも技術的にも錬成しつくされた兵だ、これが上下の別なくて戦と運命を共にする境地に置かれる

銃後における銃後の精鋭を倒す覺悟があるやうに思へるのが、置だ進撃である、長期戦を短期戦に導きかへて、戦の兇災を得るも得ざるも所詮は艦隊の第一線戦隊と同じ気持になり切つて充分な大決戦の下にやつて貰ひたいのである、私も毎日決戦の心で役所に陣頭指揮を行ひ、毎朝〝君が代〟と共に軍艦旗を揚げて部下職員と共にまず決戦の気持を上に下にも固めいづれの仕事にも上下一致になつて敢行動を實現してゐるのである

敵からみると、その旗艦方面に合理的でないことが多々的に集められ、現實の動きが少くも精神的に行はれてゐない、乗るか反るかの決戦にこんな生やさしいことでいゝだらうか、嚴しさと力強さに對して欲しい

アリユーシヤン防備の春【一】
枚を銜む魔海行
荒天にも變らぬ訓練

【鳴神島にて松岡、武田両報道班員發】昭和十八年、大東亞戦第三年の夜明は近い―『今年も決戦の年だ』聞ゆなく一億國民は確乎たる決意を新たに誓ふであらう、國民がかうして新年を迎へてゐるとき、その北方の第一線で戦ふ皇軍將兵の決意は何であらうか、まるで頑張るのも北に南に勇猛敢闘しつゝある陸海軍將兵の賜である、記者らは北方戦線の一線を訪ねた、以下報道班員を通して獲得した陸海軍北方部隊の生活報告であり、兵と敵艦隊と北部敵機、更に敵艦と米敵陸部隊の間に繰返された熾烈な戦闘史である【寫眞＝酷寒の北海を征く我が艦隊―海軍報道部許可濟第五七二號】

〇月〇日、わが北方〇〇作戦部隊の艦船は、鳴神、熱田両島に駐屯する陸海軍將兵に食糧、燃料その他、越冬に必要な軍用資材を補給するため〇〇に向け出撃した、北海の氣象は鬼の目のやうに變り易い、濃いガスが晴れあがつて陽の目を見たかと思ふと、何處からともなく現れ來つた一團れづつの羊雲が綿のやうに柔かに雪魂を散上にばら撒いてゆく、前夜の時化を食つて海上はまだうねりがやまないが、艦隊は豫定通りの航行出撃である

丈餘の激浪衝いて

艦長以下全員毛皮のついた防寒外套、黒の長靴、戦闘帽の厳しい身装ち『総員配置に着け』直ちに帝國海軍傳統の猛訓練だ、ワイヤーを捲きロープを渦巻にし、吊床、輕機や食器洗ひに餘念なかつた兵たちも作業を止めて狭い艦内をとゞ走りに走る

吹雪の中で平時と少しも變はずなされる彼らの行動は敏速活潑だ、艦隊は飛沫をあげて小山のやうな大浪を分けて進む、本州北端〇〇海は荒潮の嚴寒とぶつかつて大粒のガスを浴る以外は優瑞な偏東風を突つて艦船を催促す、一番よくない時期だといふことである

吾々は今その嵐の海にある、狂氣のやうに廻轉するスクリューの鈍重な響きが〝ゴットン〟と降居を突きあげるたびに漆黒の瀬をついて何所からともなく現れる丈餘の激浪が艦の舳にナチ切られてガバツと両舷を叩き〇〇艦の艦首も前後左右に揺れる、甲板に揚げられた大東亞全艦の資材が天井をたゝく、書棚に並べられた書籍類が生き物のやうに床に落ちる、上甲板に飛び込んだ飛沫は艦をくるむ様にして反對舷に落ちる、艦隊を抜ふ海風も一段と激しくなつて、薄暗い視界の中に僅かに艦首と艦尾が見える位、本艦の艦首も波の中にジグザグと突刺さるやうだ

この海は今眼の前に聳えるカムチャツカの雪山を越して北極にある千島、凄惨な圏雪の山と流氷の海、透明な空気を通して嶺のやうに鋭く光る、なこの氣も一度抜つたら最後、船員の七、八人は必ず呑むといふ魔海だと噂かされたら、杀を垂れると面白いやうに釣れる北海鱈も氣味悪くなつた、〇〇の敵影を経へて艦隊は倉皇として出て行く、いよいよ熱田島だ

『定期航空』を撃退

東京から直線で結んで約二千五百粁、東經百八十度、北緯五十三度のアリユーシヤン列島はその氣候、風土、動物、人情などの凡そ全て熱田島はその〇〇の中に知つた

いよいよ熱田島へ

この前の出撃の時などは先驅して來た敵艦船〇〇の〇〇が左右の水面に着いたといふ話も聞いた、しかしこの荒天の中で艦隊の陣形が少しも崩れず、兵の動作が平常とちつとも變はずなされてゆく

幾日かかうした航海を續け、艦上生活は生れて初めてだつた記者らも一ぺんに慣れて船暈もさして苦痛でなくなつた頃、全島白雪に覆はれた半島の雄大な景観が記者らを樂しませた、北緯五十度、西の水平線を越した彼方には陸續北海太平洋の波たるてゐる筈であり、人口一萬を超える極北の要港ペトロパウロフスクがある

それが本年六月、七、八日の米國海洋艦隊の作戦下に攻撃されたアリユーシヤン列島攻略に、從來狐狼してて其後十月までの四ケ月間に延べ八十一回と言ふ恐るべき執拗さを以て反攻に反攻を重ね、わが占領地の海陸を盲爆、あはよくば西南太平洋より敗戦の汚名をこの極北の地に雪ぎ、金を使つて一躍日本本土をも窺はうと躍起となつて居り、アラスカ、カナダ公路も殆ど竣工、既に兵器弾薬食糧を満載したトラックが蟻の如ふやうに往復してゐるとのことである

これに對し米下士數官雲吹き飛ぶ極北の暴風と闘ひ〝定期航空〟と綽名されるこのアメリカの空襲に抗戦し、しかも不毛の山野に資源探査の科學のメスを入れつゝあると聞くわが前線將兵の生活を確保せねばならない、冬越しに必要な物資を満載して航行してゐるわが北方部隊には、また敵側の反攻封止に備へる大任務が課せられてゐたのである

絶好の爆撃日和だ

いよいよ艦隊の爆撃圏内だ、艦隊は一路熱田島を指して森々進むコースに突込んで行く、けふは稀に見る晴れ日である、紺碧の海、ジグザグを描く艦隊の航跡がミルクをこぼして行くやうで何ともいへぬ美しさだ『絶好の爆撃日和だ』と兵たちがつた、艦橋に立つた将兵は緊張し時が刻々と過ぎて行く、對空對潜の配備にピンと緊張した艦隊、ふと見がつくとあれほど美しかつた太陽がもう西の海に沈みかけてゐる、アリユーシヤンの冬は、十三時半一分だといふに既に夜が訪れたのだ、氷山に挟れて地響を見せるやうな寒しさ、北極星はすでに中天に輝いてゐる

年齢でも差違
學生の配給米に親心

お正月から學生さんへ嬉しい増配―最近の學生、生徒の食糧事情を考慮して總督府では元日より京城府に於ける學生生徒の配給量を増配することを決定した、京城府では十二月廿八日學生、生徒用增配米券を配布、元日より増配を行ふことゝなつたが、同時に年齢別による配給量の區別も行ひ、從來實行してゐた配給に慎重な修正を加へることとなつた、これによると、男學生は一ケ月に三升五合、女學生は二升、六歳以下の小人に對しては一日一人當り同一合五勺として但し一ケ月用は向き休學した男女學生には増配を行はぬこととなつてゐる、なほ學生増配券は各家庭、下宿、寄宿舎等で從來用ひられてゐた米購入通帳に添附、一般用と同時に配給をうけるもので、自家米購入者に對しては府が指定した配給所から増配をうける、指定店は次の通り

本町管内、若草町三二永田精米所、龍山管内、憲忠町一〇鍾路精米所、東大門管内、仁寺町一二〇後藤精米所、西大門管内和泉町一朝鮮精米所、城東管内上往十里町一〇二伊東立德、龍山管内、錬兵町市場飯村哲、永登浦管内、永登浦町三四李直玄精米所

惡質演劇に鐵槌
満洲逃避行を禁止

演劇が齎す銃後國民への精神的影響は大なるものがあり、總督府では之を重視して朝鮮演劇協會を設立させ、これに對應するため、さきに朝鮮の演劇團體を統制、これが指導機關として朝鮮演劇協會を設立させ強力なる監督による新しい演劇文化の醇化を圖つてゐるが、さらに今後は當局で認めない演劇は朝鮮満洲逃避行を禁止させることとなつた、これは最近行はれた演劇團體の統制整理によつて、その存在を認められなくなつた群小の悪い演劇團體が、その去就に困つて満洲にどしどし進出興行を企て、劇をもつて興行、これでは在満半島人に及ぼす影響が大きいのでこれを防止するに至つたものである

新春の科學館諸行事

京城科學館は科學へ嬉しい贈物〝新春の科學館〟の行事を催す、科學館は戦争の第三年目に大きな指導的役割を果してゐるが、〝科學する心〟が重心を育くみ未來の日本を守護する重大さが科學館の行事を生彩あらしめて新春匆々相ついでの催行事が催されるが正月行事の主なるものは龍原第一高女校長、武田第二高女校長の協力による『模型飛行機講習會』が一月七日から十三日まで開催され道會(京城師範)、新川(京城中)両教諭指導の下にA一型飛行機は第二高女生徒六十名、G一型滑空機第一高女生徒五十名がそれぞれ講習を受け、未來の科學を家庭の生活に普及させしめんものと京城府と協力十四日から十七日まで『家庭科學講座』を開催、國民學校の女教員を對照に京城師範、蘭川、弘中

郷土を興さん
朝金聯で誓ひを制定

半島民衆の福祉と地方發展に多大な貢獻をなしてきた朝鮮金融組合は、聖戦完遂の國策線に沿つて愈々その組織を擴充強化し、戦時地方經濟の安定強化に努めてゐるが、この新春を期して『朝鮮金融組合員の誓ひ』を制定、銃後の決意も新たに内に忠節、外に奉公の旗幟を掲げて勝ち抜く大戦三年目の巨歩を力強く踏み出した、朝鮮金融組合は半島治政卅年の歴史と共に過去の經濟は大きく飛び大東亞戦争勃發以來地方經濟推進機能として愈々重視され、現在全鮮に二百八十餘萬の組合員を擁して半島戦力増強に努めてゐる、その組合員自らの愛國の至情によつて誓ひ合つたのが、その要旨は

一、勤儉貯蓄以て家を治めん
一、隣保共助以て郷土を興さん
一、至誠奉公以て皇恩に報ぜん

の三ケ條であくまで、國家目標を主眼とした組合の指導方針に副ひ職域奉公、戦力増強の一點に集中されてゐる

總督新年の動靜

輝やかしき新春を迎へた小磯總督は元旦午前九時から景武台官邸に於て新年奉拜式、東方遙拜より『年頭に當り全鮮官民の決意を促す』と題し諭書放送を行ひ理念より實践へと決戦體制の昂揚を唱導する、次いで午前十時には朝鮮神宮における歳旦祭に参拝神前に恭しく戦勝祈願を祈念し戦時第二年目を勝ち抜く決意を奉告、それより總督府に歸つて午前十一時卅分から第一會議室における四方拜式を擧行、引續き大本營の新年賀賀に臨んでより退廳、二日からは年始休暇を利用して各廳府は官邸で新春の賀客を受ける、三日の元始祭は朝鮮府で〝御用始式〟を擧行、四日は午前十時から總督府第一會議室で御用始式を擧行、決戦下の新春にふさはしく從來の如き儀禮を行はない、このほか總督は新年の松飾、京電、小原總督府、陽岡各教授、次官殿等以下の家族に生氣を與へる

機械工錬成校
陽春四月に開く

朝鮮工業協會ではこのほど總經費六十萬圓、場所は永登浦元京城紡織跡に『機械工錬成學校』を創立すると決定、機械工の養成を目的とし入所生は全鮮の優秀な機械工から選抜の上各年百名宛鍛成、料、學科、技術ともに優秀の機械工を毎年半島生産界に送り出すことになつた

商工相談所の窓口から覗く世相

昨年度京城商工相談所取扱數は一日平均廿五名、延べ日で卅名も見當といふ多數にのぼつた、相談の内容は轉業の相談がその大半、次に營取引の手續きから新事業に關する問題が一、五割、組合設立、配給統制が之れ一割、内外、諸法規、經理、金融、興業等を占め全體の約四、五割、開業者中企業許可令關係の者が過半位

府内轉業者調べ

京城府で昨年度府内轉業者を調査の結果企業許可令にふれない左の新興職業が壓倒的に多く大略次の順位であつた

竹製品の製造、センイ品製造業、模型飛行機製造、土木、鑛山の機具販賣、プリント屋、新賀屋業、ペントナイト（代用石鹸）製造、建築土木一部の下請業

☆…海に陸に堅振ひ、敵國撃滅の鬪志を振ひ勝つてゐる無敵皇軍の武運長久を大、將兵の武運とに祈願の新年を捧げるため

☆…決戦第二年を迎へた京城東側町大本山法住寺京城別院では元旦から向ふ千日間毎日四分間を皇軍の武運長久および戦歿將兵の勝利を祈り、戦勝千日祈願の修行を盛大に行ひ、行事をし、祝年間にして戦勝を祈願

卒業生と徴用

國民學校、中等學校、高専、大學卒業者の就職、賃金、徴用等の問題が、キング新年號に詳しく出てゐます。御一讀下さい

北ボルネオとの電報開始

我が占領地と朝鮮との間の電報取扱ひは現在ジヤワ、マライ、スマトラ、フイリッピン、グアム、セレベス及びビルマの各地であつたが戦捷第三年目の元旦から新たに北ボルネオとの間にも取扱ひを開始されることとなり、南方占領主要地との間の連絡は皇軍の驚異的躍進に歩調をそろへ、これで全部開通されるにいたつた、なほ料金、その他等は總てマライ向け電報と同じである

東洋ベアリング
NTN
大阪・東京・名古屋

ハーブ
久しく品切の所入荷致しました
粉白粉
水白粉
京都・東京・上海 ヘチマ事業株式會社

レスター
連續傳票自動複寫器
一組毎に番號の刷込まれた獨特な連續する傳票と特殊カーボン紙による二枚以上六枚迄複寫の出來るレスター器の自由な性能は必要な御選擇により少い人手と煩雑な事務の繁雜さを解消し百%の効果を發揮します。然も處理の時間の節約が工場、官省にも適用され事務の繁雜さを解消し百%の効果を發揮します。
（御照會次第型錄進呈）
日本レスター商會
朝鮮營業所

男性ホルモン
ユーステロン
注射錠

勝つて兜の緒を締めよ
日本高周波重工業株式會社

ケイコーミシン
東亞ミシン株式會社 京城

第三期決算公告
朝鮮單式印刷株式會社

測機舎測量器械
シンサキ測量器械部
在庫豊富

決定
公示催告

大東亞戦史
テイチクレコード
痛快！胸もすく…アメリカ、イギリス撃滅の記録！
聖戦記録「大東亞戦史」は皇軍の大勝利を當で聴く聖戦畫集であり子孫にも聞かせたい聖戦の寶典である。滿洲事變より大東亞戦爭に及ぶ日本の歩んだ大いなる足音であり大東亞興隆へ進軍する民族の歌でもある!!
東條首相・近衛前首相・松岡全權の愛國の大演説、嶋田海相の九軍神葬弔詞、山下將軍敵將引見の現地錄音、盟邦元首汪精衛・ヒトラー・ムソリーニの獅子吼、大本營發表錄音其他名文で綴る名解説、勇壯なる間奏音樂、愛國歌を輯錄せり。
十二枚一組・アルバム及説明資料入テキスト附
官廳・會社・學校・部隊・團体・家庭は是非!!

揚がる戦果に擧つて貯蓄
岩田商事株式會社
京城支店

貸金業經營講座

移轉廣告
京城府南大門通二丁目一三五
丸井ビル二階ニ移轉致候
朝鮮綿糸布商聯合會

米英撃滅へ總進軍
朝鮮住宅營團
理事長 山田忠次

病院名變更廣告
新名稱 京城赤十字病院
舊名稱 日本赤十字社朝鮮本部病院
昭和十八年一月一日ヨリ前記ノ通變更仕リ候間謹告仕候
昭和十七年十二月三十日
日本赤十字社朝鮮本部病院

一突必殺 千磨必死

京城師團報道部長 岡村勝實

鑑みて、大部分と解すれば聖戰目的は依然として日軍の如くであり、また現段階における實相と國民の覺悟などについては既に切實適確なる當局の各種發表や、要路大官先輩名士の訓辭、講演において餘す處なく、吾人の胸襟を貫き深刻に認識せしめられ、今や時局に無關心なるが如き徒輩は皆無にして苟くも生を皇國に享くるもの悉くその光榮と責務を認識し、父祖以來の大和魂は敵國殲滅、至誠盡忠の烈々たる氣魄に燃えつゝあることは、我人共に信じて疑はざる所である。曾て第一次歐洲大戰において「ドイツは動員第四週目において約二百萬の出征志願者を出し實に四十萬戰を立ちどころに實行の力を以て編成したり」と、その國民的に重職するの今も皇國青年に出征志願者を募集するとせば、さらに幾層倍、いな國を擧げての志願者があるであらうことを確信する次第である

然しながら如何に國體觀念に透徹し一死奉公を期したる熱血の士といへども、その體鍊に不足あり、訓練なく、體これに伴はざれば恰も『病床に叫ぶ悲憤慷慨』と等しく銃後職場の生產戰士たるの資格すらもなく況んや全く戰場の役には立たないのである。皇國臣民殊に青年男子は今や議論の時にあらず、斷じて敵に勝つ體力戰鬪に間に合ふ武技を體得しもつて心身一如の訓鍊により必勝の信念を培養して御奉公を期せねばならぬ。これがため一突必殺、一發必中の精神こめたる銃劍術と、射擊との千磨必死の訓鍊こそは正に本目的に合致する有効無二のものにして現下皇國青年の何はさて措いても修練すべき國防武道の粹なりと信じ、これが振興發展を念願して止まないものである

かくして皐々乎として烈々たる炎の如くに到らば必ずや鄕黨個中の風向を昂揚し、質實剛健の氣風を勃興しこゝに國家の士氣を作興して滿に一體一心火の玉となり戰うて勝つて、勝つて勝ち拔くため凡百の諸條件を構成するものと堅く信ずる次第である。由來國民の嗜好する運動競技の種類、興廢は一國元氣の表徴にして國家隆替の因をなすは古今東西この歷史の證する所なり、重ねて皇國青壯年諸士諸君は『一突必殺一發必中』の銃劍術射擊の鍛錬により必勝の信念を體得し大東亞戰第二年も、また勝つて勝つて勝ち拔くべし

鐵の戰場體制へ
陸上戰技の新方向

『戰技これ戰技』をめざして運動競技第二年を迎へた半島陸上競技界で最も注目され期待をかけられるものに陸上戰技がある。朝鮮體育振興會では陸上競技をして戰場運動競技と合體、新たに『陸上戰技』の名稱のもとに積極的活動を開始することになつたが、こゝに『陸上戰技』と改稱されるに至つた經過の一端と新しい方向を明かにして半島體育界の體位と一層の鍊成に寄與しよう

支那事變 の長期化とともに國民體位の鍊成增强はいよいよ急務とされ、日本陸上競技聯盟ではこれが積極的對策に關して去る十六年春以來考慮中であつたが、今次大東亞戰爭の勃發とゝもにますますこれが研究實施に迫られた、と共に陸軍戶山學校でも支那事變の實際的教訓に基き戰技の充實强化を研究中であつたので、ここに兩者の提携が進められて陸軍省兵務局兵務課、陸軍戶山學校の關係者

陸上聯盟 各部長及び幹事とが相會して陸上競技が國家の要請に應へて起つべき新方向に關して双方腹藏なき意見を交換、この第一回會同では競技の本質その他に關しては可成の激論が交されたのであつた

國家千年 の大計まさに樹てらるべきの秋である、このときに際して陸上競技は率先百八十度の大轉換を行つて新たに陸上戰技として國家要請の要務たる國民の綜合體力鍊成と國防技能の擴充增强に寄與し得ることになつた

海外遠征 におけるわが代表の輝く戰績など何れも平和の國際戰場においてわが國威を大いに宣揚、また國內的には國民體育の鍊成に寄與せしところは決して尠くないものがあるかくてわが陸上競技の過去は平和時代における文化的使命を或る程度まで達成した輝かしいものであつたのである

陸上競技 の種目と國防競技の種目を綜合鍊成するところに新たに戰技たるの價値が見出される、陸上戰技の基本種目は過去幾多の戰場に於てわが將兵が血を流した生きた教訓に基き陸軍戶山學校が銳意研究の結果、戰場必須の能力增强に直接役立つ種目であると認定されたものである

研究され て行くものである、またわが陸上競技の特技をどこまで高度に錬成された三段跳や棒高跳及びその他の種目に就いては別に技術保持の目的及び今回の新しい方向による操陣の結果得られたる基礎的體力を有する者は從來の種目を行つて各種選抜競技會において一層積極的に行はれるやうになるもので、從來の陸上種目が廢止されるといふことは全然なく

戰技なご を新たに包含して擴大されるといふことができる

今後の實 行如何に問う、しかし、これが履行はれるものであり、こゝに新たなる國家的理念に基く陸上競技の延長たる『陸上戰技』を誕生をもつて實踐、これが育成發展に邁進すべきである

文化の戰ひ
昭和十八年文化界の課題

津田 剛

我が方は最少限度に見ても、十億アジヤの民を解放する重大なる建設をなさうとしてゐる。否、その大半は既に出來上りつゝある。しかるに彼は只何十年間、自己の利益になるやうに作り上げた世界を、もとのまゝに維持せんとするだけの意味しかない。しかもそれを維持するとが一日長ければ長いだけ人類はそれによつて禍ひするのだから、たまつたものではない。かういふ意味では米英は全く野蠻人である。

今度の戰爭程、文化人と野蠻人との戰ひであるといふ性格がハッキリ出た爭も稀有な例がなからう。

二

アングロサクソン文化が、人類に與へた害毒の最も大なるものは、個人を見て全體を見ないといふ個人主義、部分主義の弊であらう。政治も經濟も、組織も、みなこれが爲に行詰つて了つた。この二十年來、世界のあらゆる文化の

戰爭といふものが、只人間と人間とがいがみ合ひ、なぐり合ひ、鐵砲を打ち合ふだけのものならば、それこそ蠻的無意味のものであり、且つ無意味なものとなつてしまふ。

しかしそれは野蠻人の爭ひであつて、進んだ社會程戰爭目的がハッキリしてをり、戰ひの背後に正しい文化の建設の意欲が動くものである。

日本が世界で最も進んだ文化社會をもつてゐるといふ事は、戰爭を通じて見る時、日本の理想、即ち天地の公道たる惟神ながらの大道にそむく、まつろはざる者をまつろはしめるといふ大いなる建設が戰爭の指導理念をなしてゐる事から見ても分る。

まつろはざる者をまつろはしめんとする我國の戰ひこそ最高の文化の戰ひといふ事が出來る筈である。

この事は、今回の大東亞戰爭にも、はつきり現れてゐる。

わが國陸上競技の歷史を繙けば明治初年に他の文化とゝもに輸入移植されてその發芽餘年の長

本年第一次の大東亞戰爭にあるべき、國家目的に向つて迅速なる鍊成體制の確立と國防力の增强に積極的に寄與すべきであるといふ點においては全く意見の一致をみたのである、その後數回の會同と陸軍の再度の會見が行はれてつひに日本陸上競技聯盟は戰場運動競技と合體することが昨年秋に決まり、こゝに朝鮮でも陸上競技の組織に双手をあげて贊同、最後にこれが實現に至らしめたのであつた

大刷新を 敢行してこ

陸上競技界もこの際劃期的躍進を遂げるべく、國家的總力體制を敢行、眞に積極的協力態勢を整へ國家目的に副つて鍊成の下の要務であり、鍊成界の

戰春

百瀬千尋

戰ひつつかつうち建てつ草綿の榮ゆる御代の青さかんなり
天傳ふ美日射るごとすめらぎの御稜威とどかぬ際あらめやも
ひと系の維と縒りなし一億の決意たくましき東統べ給ふ
八紘宇とおほはむ御偉業つかへ奚しみあに繞まめや
捷ちに捷ちかぎりあらせぬ大き世の國の紀と赤め畜さむ

半島の史向 (1)
新しい朝鮮史への一試論

松田壽男

歷史は、事象の羅列ではなく、事象の解釋を建前とする。その解釋は、もちろん史料に基いたものでなければならない。史料のない人間は不幸であり、史料の解釋はその人間の欲望を示すと言はれるそのやうに、歷史にも史料が絶對的に要求される。まことに、歷史こそ、史料の學である。

あの『資治通鑑』や『大鏡』などが示してゐるやうに、嘗て歷史の分野には『かがみ』としての役割があつた。今日の歷史はそのやうな教訓的なかゞみではなくまことに現實に對するかがみであらねばならない。

この意味において、朝鮮半島の歷史を展望することは、單に半島のためだけでなく、全皇國民にとつて最も切實な課題の一つでなければならない。私がこの試論をのする氣になつたのも、さうした理由からである。

嘗て『日韓ルート』といふ言葉が流行したことがあつた。周知のやうに、それは韓帝國誕生の前後に起つてゐる。しかしながら、今日ではどうであるか。御稜威の下、皇軍の赫々たる大戰果に接しつゝある國民の眼は、ともすれば南方にのみ偏つてはゐないか。現に我々が手にする多くの時局解說は、さうした傾向を暗示してゐるとはいへないであらうか。しかし、いかなる新事態が齎されたにせよ、日韓ルートが皇國の生命線であることは、嚴として動かない事實である。

いふまでもなく、この日韓ルートは、わが朝鮮半島を經由する。しかしながら、この事實は、決して新しいことではない。朝鮮半島はアジヤ大陸の一端にぶら下つた中國發起ではない。それは、地理的に見れば、日本列島から大陸の中央部に向つて發設された橋梁にほかならない。それは、古今を通じて、皇國が大陸にさしのべた一手であつた。

このやうに、皇國の一手は、悠遠の昔から、この橋梁によつて滿洲に達し、こゝで、或は北方シベリヤの大森林地帶に連絡し、或は興安嶺を越えて、蒙古に、さらに中央アジヤへと伸展する交通の幹線路となり、或は、遼河の畔から北支那を貫く農耕アジヤの交通路となつてゐたのである。まさしくそれは、遼海や東支那海を渡り、或は滿洲をつたはつて、支那やインドシナ、また南洋諸島へと向ふ

海上交通路と共に、アジヤの大動脈をなしてゐたのである。

それならば、アジヤの動脈の一部として、かくも大陸東端の樞要地帶として、半島は、どんな歷史を展開したか。(筆者は城大助敎授)

たかゞ分る。

文化的にもこれは大きく現れた。學術は學術、文學は文學、美術は美術と、夫々部分的に孤立し至上主義の美名の下に、人間文化全體の諧調を破り、文化の名において人間に多くの害毒を與へた事は、人のよく知る所である。かゝる頽れ行く文化に訣別を與へ、地上より一掃してしまふのが今回の大東亞戰の目的である。

日本文化が分裂せる米英文化に和と綜合を與へるべき使命と本質とを有することは、今更こゝに説くまでもなく、日本の歷史そのものが最も確實に物語つてゐる。

米英文化の今一つの害は、綜合において彼等の文化が、いくら分析しても物質主義になつてしまふ點である。これは人間を野獸化するに大きな役割を演じたが、之旅日本の深い精神主義により救はれなければならぬ運命になつてゐると考へられる。

之を要するに今日の戰は、いづれの點より見ても、日本文化が米英文化を打破して人類を苦惱から解放しなくてはならない立場にある戰爭といはれる。

三

大東亞戰爭に對して、文化人と技術者とはは進歩と保守、文化人と野蠻人の戰ひであり、まつろふものがまつろはざるものを打ちこらす戰爭である。

大東亞戰爭に對して、文化人としてこれをどう戰ふかについては以上述べた如くであるが、かゝる戰爭に參加出來ることは、昭和の聖代に生を享けたわれくの子孫々に至るまでの無上の光榮である。

この難ける責務を果すためにはわが國の文化人は總力を結集してこの聖戰に馳せ參じなければならない。今や昭和十八年を迎へて、愈よ長期戰の樣相を呈し來り、戰爭の總體はこゝ一、二年である。我等が戰ひに馳せ參じるとそれ自ら文化を生み、輝てる事である。

即ち人類に幸福を流す偉れる文化を地上より滅亡し去る事、それは偉大なる文化的事業が一體どこに存するであらうか。

文化總力の結集、そして戰爭へ―これが昭和十八年度の日本の文化的課題である。

この事は半島における文化にもその儘あてはまる。半島の文化界は、內地の文化界に比べて一層未開拓である。米英文化の影響は少いが、內地よりも文化の浸透も溥く、また昭和十九年の徵兵制の施行と昭和廿一年の義務教育制の實施を目前に控へて、全力を盡して聖戰地に比べて一段と努力を要する點である。

日本文化それ自らの理解力も、內地に比べ一段と努力を要する點に馳せ參ずると共に、自らの問題を解決しなければならない責務が

あり、內外二重の重大なる責務に、死物狂ひの努力をもつても尚足りるとはいへないであらう。

しかるに『時局の動向はよく分るが、何か全體をこの建設のために投げかける氣になれない』といふものが一部に未だに存するのは如何なるものであらうか。

とまれ、本年は我が半島の文化界にとつても、未曾有の重大なる試煉の年であり又重大なる責務を果す光榮を擔ふ輝ける年でもある文化總力の結集、そして全力を戰爭へ!

これ本年に課せられたる半島文化界の最大の課題である。

京日仲壇

高濱虚子選

釜山 赤迫雨渓
大甕を良みつゝも讀みはじめ

福岡 濱原楊童
中流となりて狩舟降ちにけり

目出度を神とし舊き年迎ふ

初便り名されし旧友誰々ぞ

水鳥や静より流すものを追ひ

木の葉散り巻いてきみしき

新義州 土山紫牛
旗馬の首ひてをりしコトくと

吃えとうくる旅間息白く

商業を以つてはかに屯は多

二三尾の寒魚をさげて着ぶくれて

【冬季雜詠】一月廿日締切◆官製ハガキに一人一枚二句づつ認め五枚以內◆京城日報學藝部【京日仲壇】あて◆住所氏名明記のこと

延吉にて

牧洋

延吉より一時間おくれて滿洲國の關門圖們につきました。この街は沙漠の上にによきりと打ち建てられたビルディング街といつた感じです。猛烈な寒さです。南國のわれくを入國第一歩で試してやれと狂つて、午前中に、吹雪をおこし、砂塵を顏へぶつけて呉れるのです國境では通行人の服装を整つた物々しい防寒帽が、こちらでは絶對必需です。

『けふの誓』

不撓連續

何といつても、大らかな元旦である。

然し、天下、お目出度いとばかりは申してゐられない。

過ぎた一年の戰果を、兵隊さんにばかりまかせて來たとすれば、けふから後の戰ひは、吾々が半島國民として、銃後の「一翼」を、誠實に果たさねばならぬ。

決戰といふ言葉は、今こそ吾等の身近に感ぜられる言葉であり、氣のせゐか、新しい世紀の息吹きといつたやうなものが、聞えるやうな氣さへする。

こゝで勝抜くことを知らない人間は、それこそ、たゞ『お目出度い人間』では濟まされぬ。

『幽靈大いに怒る』

◇……松竹大船作品

☆……松竹大船作品『幽靈大に怒る』――萬人向きの喜劇を內容として佐分利、高峰、三浦の第一線陣にお馴染の老優、河村、坂本、齋藤等を噛ませ、澁谷實が演出した大船の喜劇映畫である

☆……池田忠雄(脚本)の會話には確かに長じたものがあつて、臺詞の面白味は充分堪能させてくれる、だがこれを部分的にみると同一つとして新味はない

☆……つまり各俳優の匯巷なり、畝どころなりを器用に綜合して喜劇を狙つてゐる所、旧藏多忙で六呂一齣の作品を見落した人にはこの一篇がそれらの決定版の如くに樂しく見ることが出來よう

文化だより

◇某氏 朝鮮藝術社の發行『新世紀』誌新年號は半島藝術藝能全般の…

大いなる祭 【26】

中野實(作)
三芳悌吉(繪)

白旗(一)

六本營海軍部發表、十日午後四時五分、帝國海軍は開戰劈頭より英國東洋艦隊、特にその主力艦二隻の動靜を注視しありたるところ、昨九日午後帝國海軍潛水艦は、敵主力艦の出動を發見、爾後帝國海軍航空部隊と緊密なる協力の下に捜索中、本十日午前十一時半マレー半島東岸クワンタン沖において再びわが潛水艦これを確認せるをもつて帝國海軍航空部隊は機を逸せずこれに對し勇猛果敢なる攻撃を加へ、午後二時廿九分戰艦レパルスは瞬間にして轟沈し、同時に最新式戰艦プリンス・オブ・ウエールスは忽ち左に大傾斜、暫時遁走せるもまもなく同二時五十分大爆發を起し遂に沈沒せり。こゝに開戰第三日にして早くも英國東洋艦隊主力は全滅す

よりの報道によれば、戰艦プリンス・オブ・ウエールス號(艦長J・C・リーチ大佐)トマス・フィリップス東洋艦隊司令長官坐乘、ならびに戰艦レパルス號(艦長J・G・テナン大佐)は轟沈されたり。詳細については尚戰鬪中より攻擊によつて撃沈されたりとの日本側公表以外いまだなんらの報告なし……以上です。えらいことになりましたね

フロイスはキャバレー・リスボンの支配人だ。頑強な男らしく目が始終動き、ちよかくしてゐる。

『どうもなんとも早……。』私は、あなたが仰有つたやうに、あの新式のウエールスとレパルスがある限りは、マレーに上陸した日本兵は、皆殺だと、思つてゐたんですが……』

すると、急に、アルメイダは、感嘆でも鼻づけられた樣に畫面を

見るに至れり

【おゝ神樣】

アルメイダは泣き出しさうになつて、祭壇の前にひざまづいてゐた。

『とても私には信じられません。あのレパルスとプリンス・オブ・ウエールスが沈むなんて、そんなことは信じられません。お、神樣。世界の七つの海を支配するわが英帝國の艦隊が、日本の飛行機によつて擊沈されるやうなことがあり得るでせうか。そんな、そんな馬鹿なことが……』

その時、アルメイダの隣をたゝいた者がある。

これも祇のやうに蒼白な顏だ。大分慌てゝゐるものと見え、アルメイダの本名、コツクスを盛んに連發する。

『コツクスさん。コツクスさん。やつぱり本當です。日本の發表は事實です』

『なに事實だつて、フロイス君』

『さうです。今、本國の海軍省でも正式にコムミニケを發表したのです。海軍省は、えゝと、一寸待つて下さい』

と、フロイスはメモを出して、『海軍省は左の如く發表するを遺憾とす』すなはち、シンガポール

作つて、

『なあに、あの軍艦だけが英國の全部ぢやあないさ、シンガポールが陷ちて堪るものか』

『しかし、九龍半島方面の戰況は面白くなくて、金山と地雷原陣地を結ぶ香港戰の本防禦陣地は、今夜が目だ……ですが。みんながつかりして、千萬が自殺してしまつたんでせうか』

『何をいひ たまへ。いくら香港戰の敵艦が馬鹿でもマレー沖の敗戰を、第一線の印度兵や濠洲兵に知らせるものか』

『でも、萬門の町の噂中はもうみんな知つてゐるやうですよ。今まで豪香側についてゐた支那人が掌を返すやうに日本につき始めたんです。アルメイダさん、それについて』

と、フロイス氏聲をひそめた。

ラジオ 1日

朝

▲六・〇〇大東亞戰爭完遂新穀祭―內宮御樂殿より―▲七・〇〇―御製謹誦(錄音)―佐々木信綱謹作―『夜息羽天皇御製』『明治天皇御製』伊藤長四郎▲八・三〇『年頭の辭』廿六…▲九・〇〇國民歌謠の時間―開始曲…▲一〇・〇〇歲旦祭―朝鮮神宮より―

夜

▲六・〇〇―シンフォン『見よ東海の空明けて』―▲七・二〇―詩吟…

改造 新年號 定價壹圓

生死と國家・佐藤通次
日本の倫理・小沼洋夫
皇國農村の道
洛東窯談・清水六兵衛
栖鳳回想・竹內逸
創作・朝暮兵・尾崎士郎
貿易と戰力增强(座談會)

○登記公告方

商業登記公告

計告
前中樞院參議正七位木山鳳鎮以宿患不幸於今月卅日正午別世玆以告訃
永訣式場 自宅
昭和十七年十二月卅日
嗣子 崔白金
次子 金林
女 竹孔
婿 金
親戚總代
友人總代

ワキガ を治すには今が一番好い時期です
自宅療法説明書差上ます
野村久子

頑張れ!敵も必死だ
京城ゴム工業組合
大陸ゴム工業株式會社 木
合資會社京城ゴム工業所 太
中央ゴム工業株式會社 田下
株式會社朝鮮ゴム工業所 永
瀬口ゴム工業所 錫
昌根

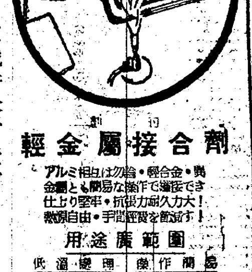
頑張れ!敵も必死だ
一進會本部
京城府鐘路町八〇番地 電話(光)三〇二九番

醫學博士 鮫島義雄
鮫島産婦人科
電本一六二八 京城本町三ノ八

ここも戰場だ
帝國酸素株式會社 京城支社
京城府古市町十二番地(片倉館內)
支店長 大庭克

和漢合劑……富士胃腸藥
本劑は多量のヘーフェ植物ホルモンを含有せる理想的合劑であります。
胃痛 胃弱 胃酸過多 食慾不振 消化不良
製造發賣元 富士屋藥房 京城府南大門通二丁目
振替京城一五〇四一
御用命は直接本舖又は各地有名藥店にあり

アロート・7
輕金屬接合劑
アルミ相互は勿論・輕合金・異金屬とも簡易な操作で溶接でき仕上り堅牢・抗張力耐久力大!熱源自由・手間經費を節減す!
朝鮮總代理店 京城府本町壹丁目 佐野彥藏商店 電話本局(2)二六三三



前進する大松竹の豪華陣

湖畔の別れ
開戰の前夜
戰ひの街
愛機南へ飛ぶ
ビルマ作戰 遙かなり父母の國

二人姿
松竹映畫 情緒大作
想ふ人の出世のため哀しく戀をあきらめた小鈴、もうすぐ生れて來る可愛い赤ちやんと二人で姿をかくした小鈴…それから二十年、昔のはげしい情熱こめた眸の小鈴に瓜二つの美しいバスガールが…
水戶光子二役
艶麗の藝妓小鈴と可憐なバスガール千代子の熱演
★お正月第三週・白系・一月十一日封切決定

幽靈大いに怒る
松竹映畫 明朗大作 演出 澁谷實
佐分利信 高峰三枝子 三浦光子 德大寺伸 齋藤達雄 河村黎吉 山口勇
★お正月第一週 白系三日まで上映中